

YAMAHA ELECTONE®



G-401

取扱説明書

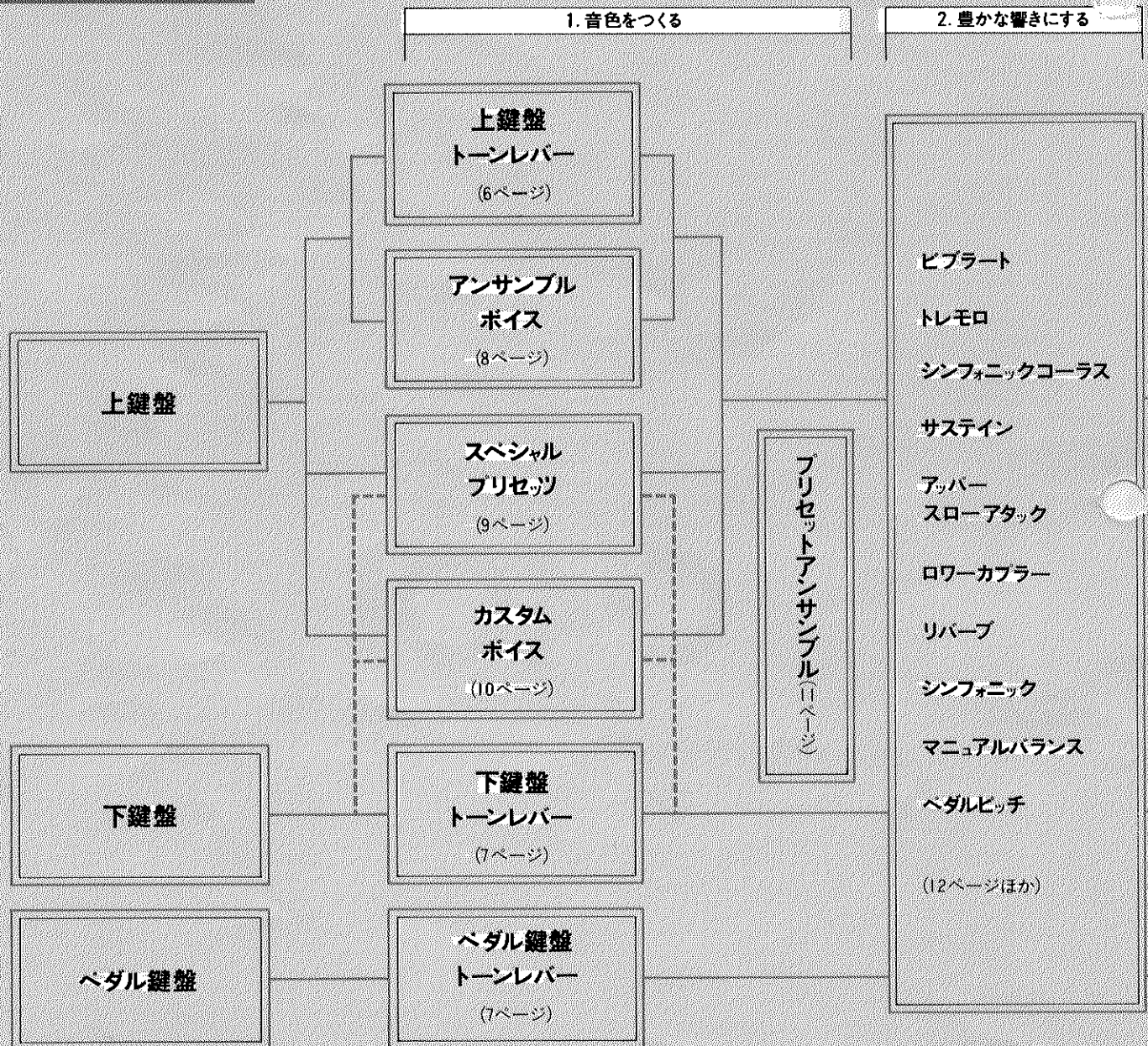
このたびはヤマハエレクトーンをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございます。

エレクトーンC-401は、永年つちかかってきた楽器づくりの経験と技術をもとに、時代の先端をいく電子テクノロジーをふんだんにとりいれて完成させた最新型の電子オルガンです。特に、ヤマハが独自に開発したデジタル技術によって実現した「自然で生き生きとした音」「豊かな響き」は、どなたにもご満足いただけることと思います。さらに初心者の方でも手軽に楽しめる数々の自動演奏機能を取りいれていますので、ご家族全員でご愛用いただけます。演奏にあたりましては、その多彩な機能を存分にお楽しみいただくため、あらかじめ本書をご一読くださいますよう、お願いいたします。

●目次●

- 1. レバーやボタンの名称。…………… 2
- 2. まず音をだしてみよう。…………… 4
- 3. いろいろな音色をつくってみよう。…………… 6
- 4. 音に表情をつけて、豊かな響きに。…………… 12
- 5. メロディーにハーモニーがつけられます。…………… 16
- 6. リズムを加えてみましょう。…………… 17
- 7. 自動伴奏を楽しみましょう。…………… 20
- 8. アルペジオ(分散和音)伴奏も楽しめます。…………… 23
- 付属端子と音のエチケットについて …… 24
- 仕様と音域表 …… 25
- エレクトーン教室のご案内 …… 26
- 木永くお楽しみいただくために …… 27
- このような現象は故障ではありません …… 28
- サービスと保証について …… 30
- エレクトーン豆知識 …… 32

エレクトーンC-401の概要



3. 楽しさをひろげる

メロディーに
ハーモニーをつける
〔メロディーオンコード〕
(16ページ)

リズムを加える
〔オートリズム〕
(17ページ)

(連動します)

(連動します)

自動伴奏にする
〔オートベース/コード〕
(20ページ)

アルペジオ伴奏を
加える
〔オートアルペジオ〕
(23ページ)

1

レバーや
ボタンの名称。
〔各部の名称〕

2

まず音を
だしてみよう。
〔音をだすには〕

3

いろいろな音色を
つけてみましょう。
〔音色〕

4

音に表情をつけて、
豊かな響きに。
〔効果〕

5

メロディーにハーモニーが
つけられます。
〔メロディーオンコード〕

6

リズムを
加えてみましょう。
〔オートリズム〕

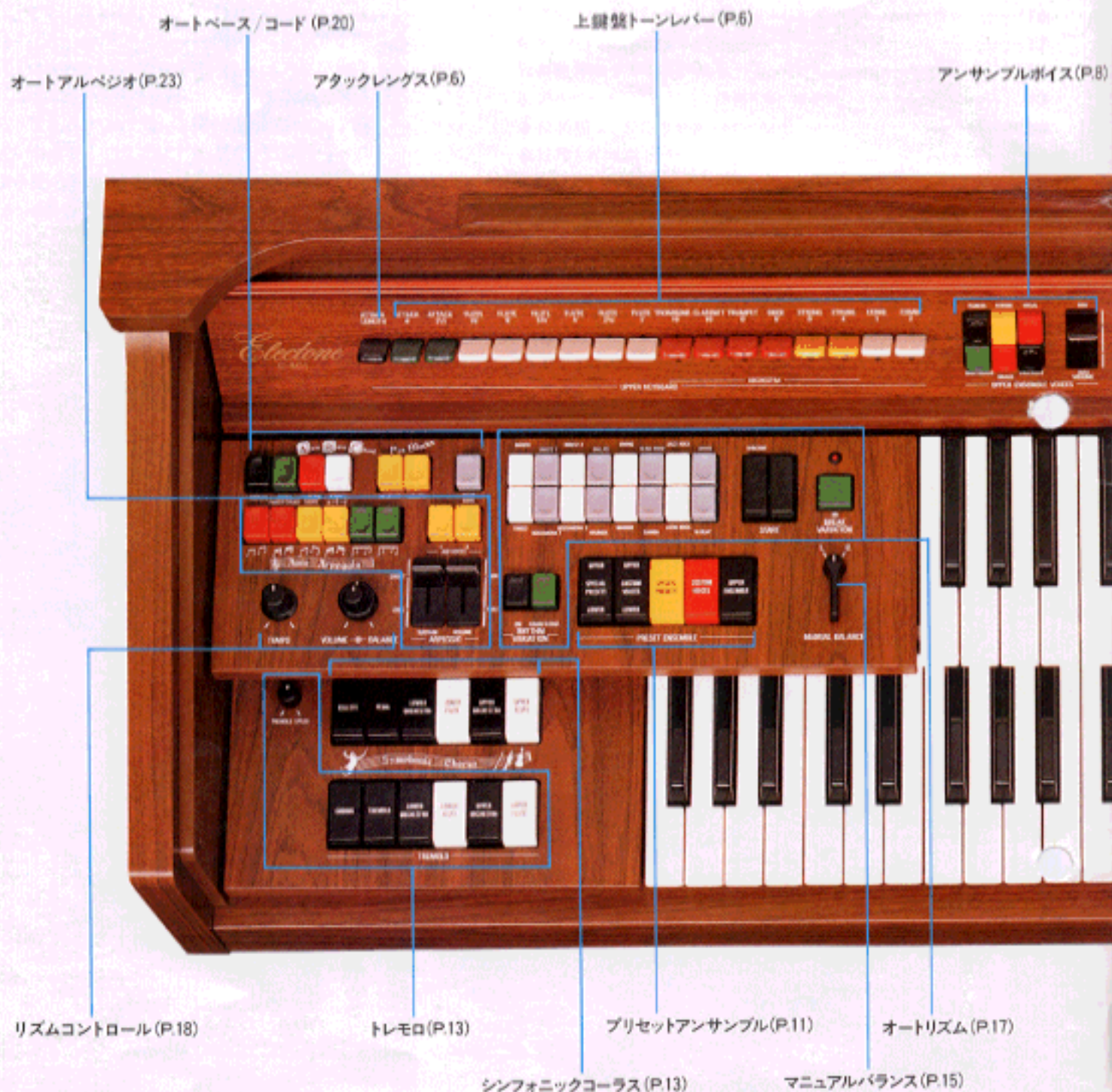
7

自動伴奏を
楽しみましょう。
〔オートベース/コード〕

8

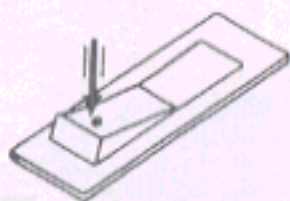
アルペジオ(分散和音)
伴奏も楽しめます。
〔オートアルペジオ〕

レバーやボタンの名称。

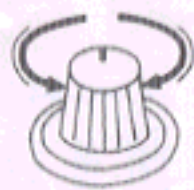
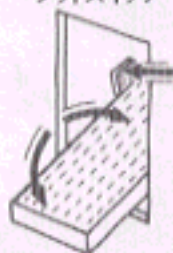


★レバーやボタンなどの操作のしかた

電源スイッチ



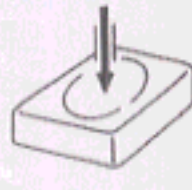
つまみ

エクスプレッションペダルと
フットスイッチ

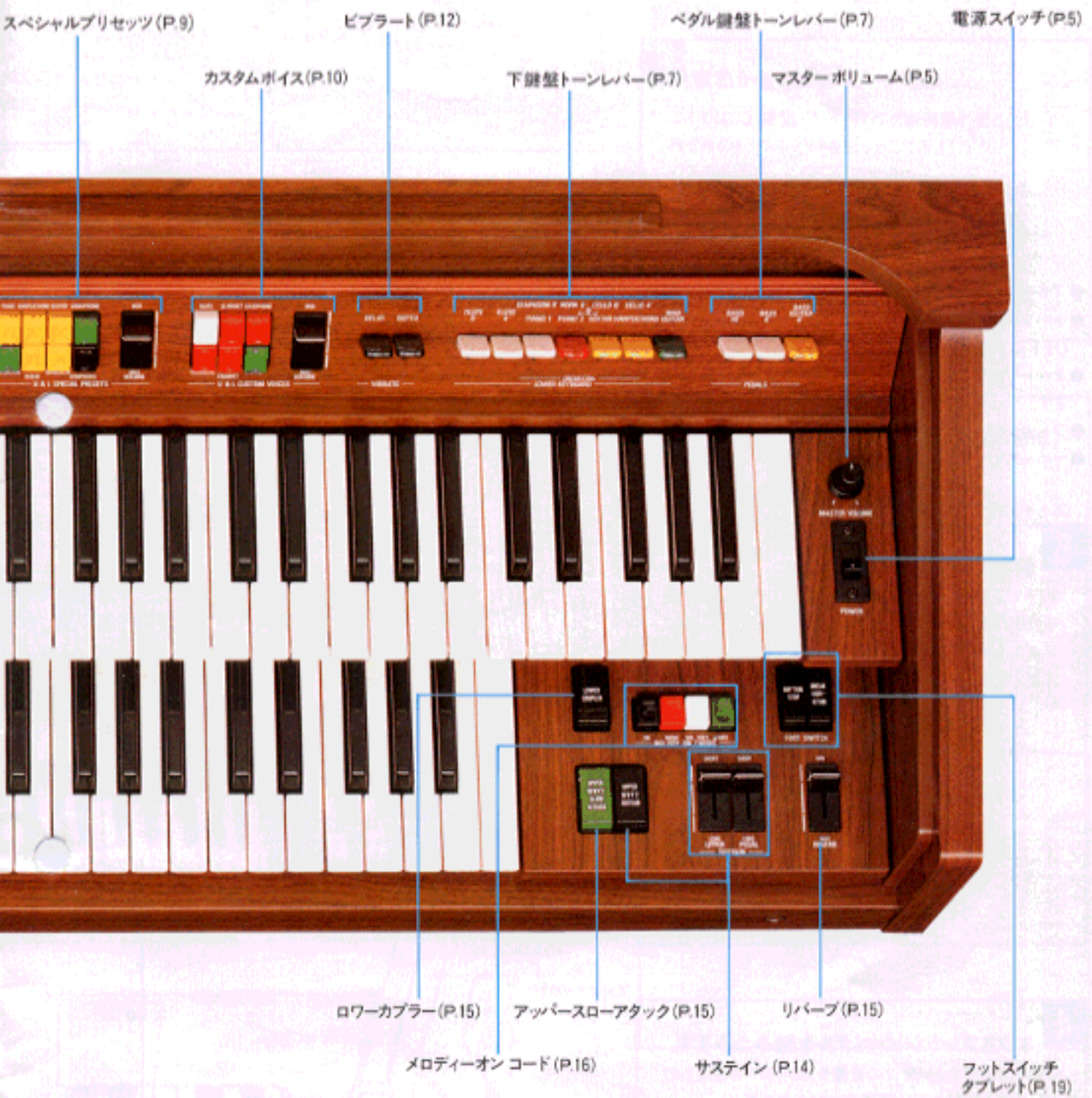
トーンレバー



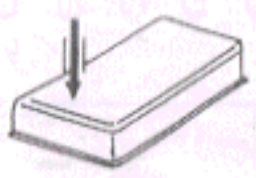
セレクトボタン



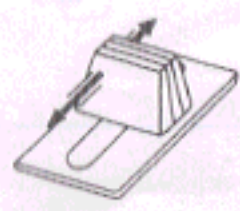
()内の数字は本書で説明しているページ数です。



タブレットスイッチ



スライドレバー



マニュアルバランスレバー



ニーレバー



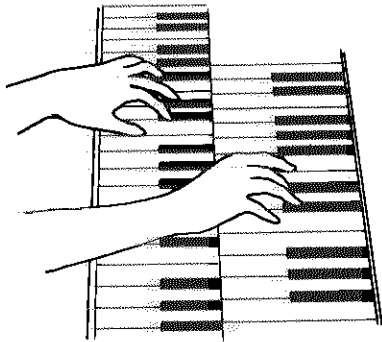
まず音をだしてみよう。

- 1 から 5 の順に操作してください。
- トーンレバー以外のボタンやタブレットスイッチは、すべて OFF の状態にしておきます。
- オートベース/コードはノーマルの黒いボタンを押しておきます。
- アンサンブルボイスはキャンセルのボタンを押しておきます。
- マニュアルバランスは、中央の位置にセットしておきましょう。

5

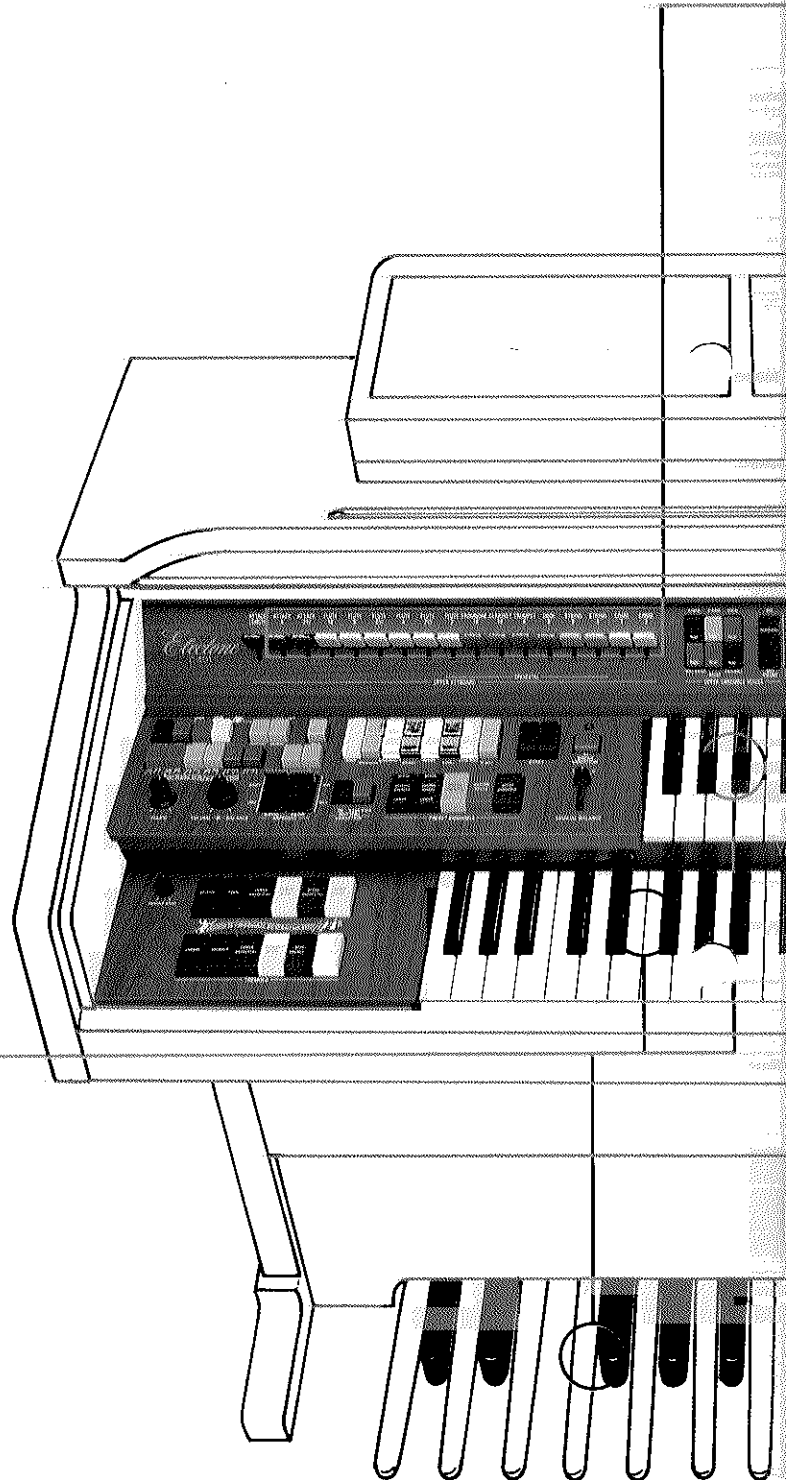
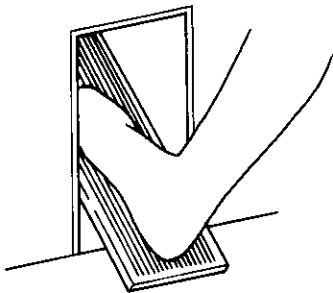
鍵盤を弾いてみましょう。

右手で上鍵盤、左手で下鍵盤、左足でペダル鍵盤をそれぞれ弾いてください。右足ではエクスプレッションペダルを操作します。それぞれ音がでてきたことと思います。



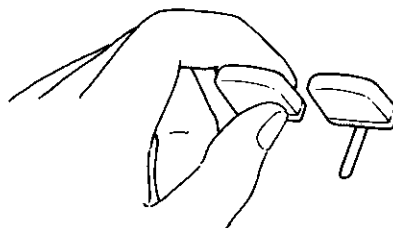
4

エクスプレッションペダルを踏みこみます。これもエレクトーン全体の音量をコントロールするもので、演奏しながら音に強弱がつけられます。



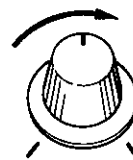
3 音色をセットします。

ここでは、上鍵盤・下鍵盤・ペダル鍵盤の音として、それぞれのトーンレバーをセットしてみましょう。



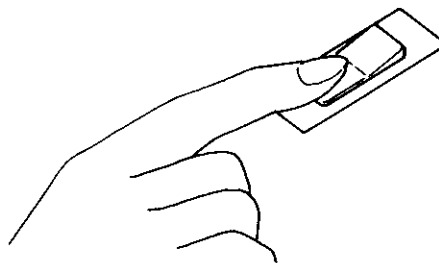
2 ボリュームのつまみ(MASTER VOLUME)を中央ぐらいにセットします。

このつまみでエレクトーン全体の音量が調節できます。

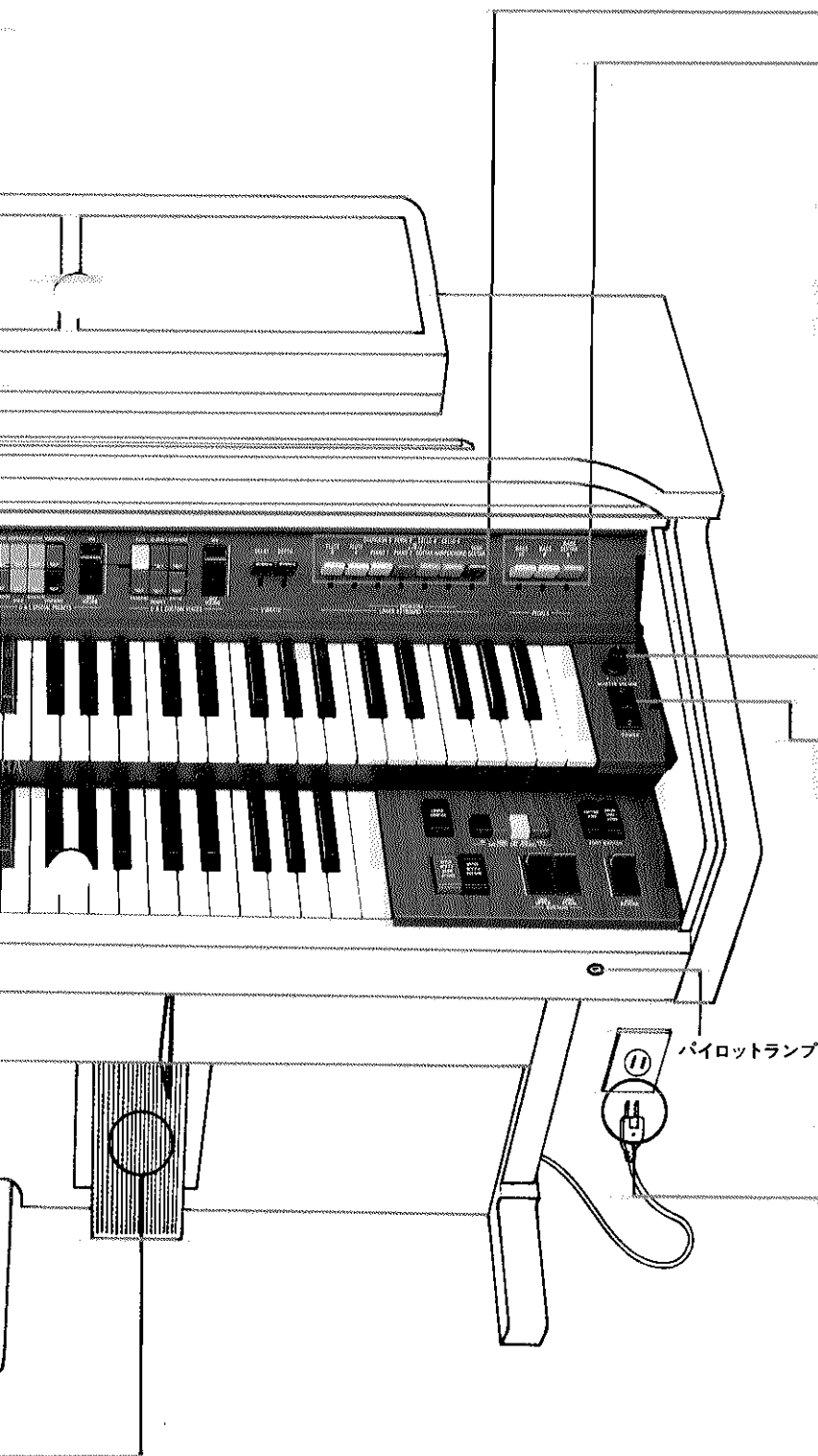
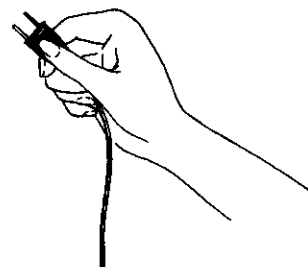
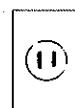


1 電源スイッチ(POWER)を入れます。

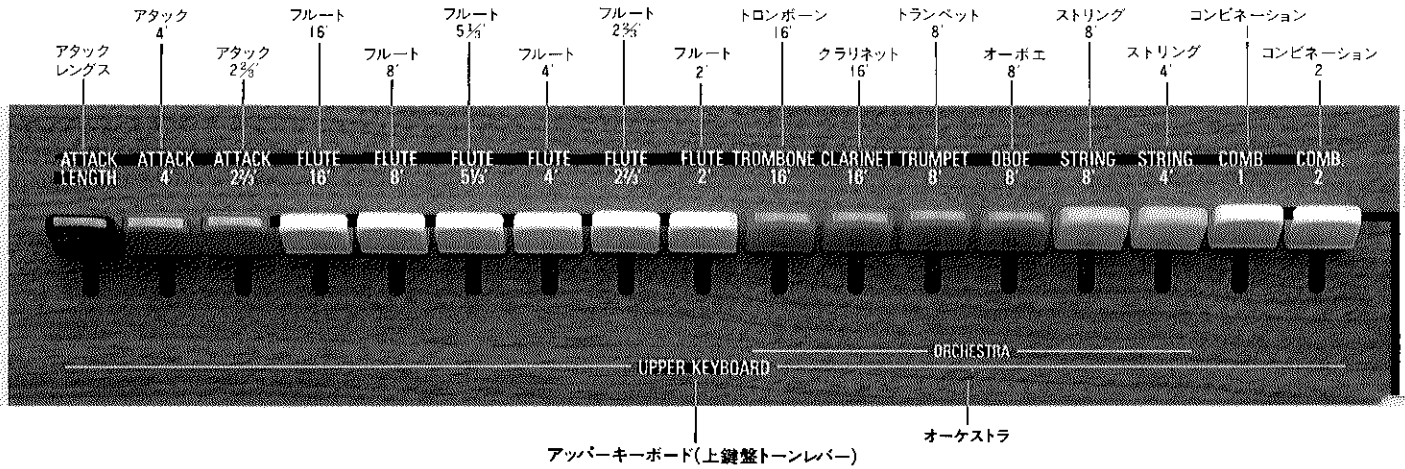
パイロットランプが点灯します。



電源プラグをコンセントにさしこみます。



いろいろな音色をつくってみましょう。



上鍵盤トーンレバー

上鍵盤からはいろいろな音色がだせますが、まず、オルガン的な音色をつくるトーンレバーからみていくことにしましょう。

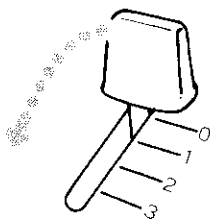
① だしたい音色のレバーを下にさげてみましょう。

フルート系は白、管楽器系は赤、弦楽器系は黄色、アタックなど効果がくみこまれている音色は緑色に、それぞれ色分けされています。また、管楽器系と弦楽器系をあわせてオーケストラ音色といいます。

② 上鍵盤をおさえると、セットした音色がでてきます。

③ 音量を3段階にコントロールできます。

音色をセットするとともに、それぞれのレバーで音量も細かくコントロールできます。途中2カ所でレバーがセットできるクリックストップ式になっていて、一番下が最大の音量になります。



④ 何種類でも、自由に組み合わせられます。

付属の「楽しめよう、エレクトーン」を参考にして、いろいろな音をつくりだしてみましょう。

● カブラー効果とは。

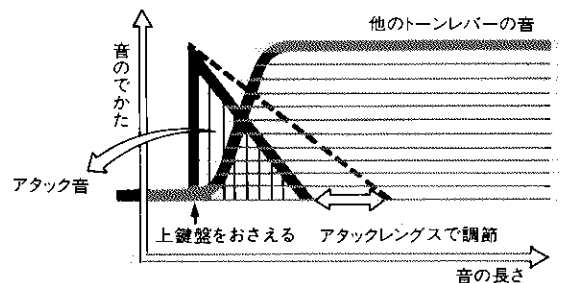
楽器名の後の数字は音程を示すもので、8'(8フィート)が基準の音程です。例えば、フルート16'、8'、4'を一緒にセットすれば、1オクターブずつちがう3つの音を同時にだすことができ、より厚みのあるサウンドがつくりだせます。これをカブラー効果と呼んでいます。それぞれのフィートの音程と使われ方の例を示しておきましたので参考にしてください。

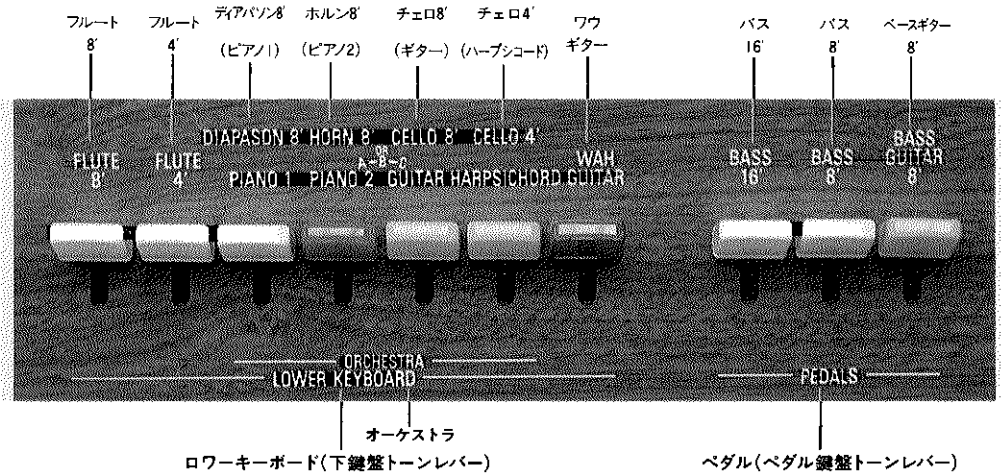
フィート	でてくる音の高さ	使われ方の例
16'	1オクターブ下	厚みのある響きにする
8'	基準の高さ	基本になる音
5 1/2'	5度上	ジャズオルガン的な感じにする
4'	1オクターブ上	強さと明るさを加える
2 2/3'	1オクターブと5度上	するどい感じにする
2'	2オクターブ上	さらびやかな感じにする

● アタックとアタックレングスについて。

アタックは立ちあがり早く、長さの短い音色です。ほかのトーンレバーと組み合わせることで、歯切れのよい音がつくりだせます。

アタックレングスは、アタック音の長さをセットするもので、下にさげるほどアタック音が長くなります。





下鍵盤トーンレバー

●コンビネーションの音をだしてみましょう。

コンビネーションにはトーンレバーをいくつか組み合わせた音色があらかじめセットされています。レバーをひとつ入れるだけで、よく使われるサウンドが簡単に得られて便利です。

コンビネーション1…… 歯切れのよいジャズオルガンサウンド
 コンビネーション2…… 広がりのあるシアターオルガンサウンド
 コンビネーションの音色は単独で使うもので、ほかの上鍵盤トーンレバーとは組み合わせられません。同時にセットするとコンビネーションの音色だけがでできます。

★コンビネーションの音色には、ほかのトーンレバー音色と同様に、トレモロ、シンフォニックコーラス、サステインなどの効果を加えることができます。

★クリックストップ式にはなっていないので、一番下までさげてください。

★コンビネーションのレバーを2つ同時にセットすると右側のレバーが優先します。

下鍵盤からだす音色をセットするレバーで、上鍵盤トーンレバーと同じように、組み合わせることができます。

●ABCトーン

ディアパゾン8'、ホルン8'、チェロ8'、チェロ4'の音色は、オートベース/コード(自動伴奏)を使うときに、下段の音色(ABCトーン)に切りかわります。(20ページを参照してください)

●ワウギター

ワウ効果の組みこまれたギターの音で、オートリズムを使っているときにこの音色をセットすると、“ワウワウ”という感じでリズムをきざみます。

ペダル鍵盤トーンレバー

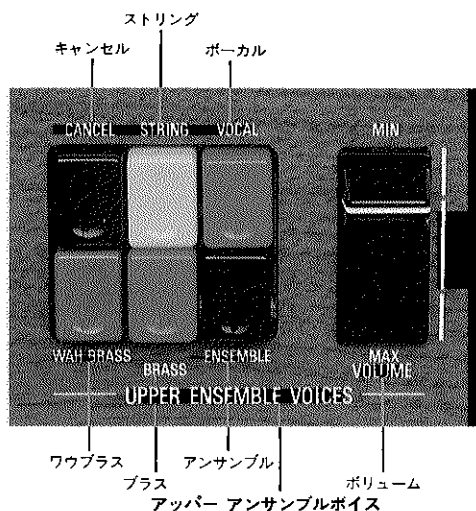
ペダル鍵盤からだす音色をセットするレバーで、組み合わせることもできます。

●バス16'・バス8'

コントラバスの重厚な音色です。特に16'は体に感じるような低音の響きが得られます。

●ベースギター8'

立ちあがり早く、途中で消えていく減衰音ですから、歯切れのよいベース演奏ができます。



アンサンブルボイス

上鍵盤からだす音色をセットする機能のひとつで、いろいろなアンサンブルサウンドを簡単に選ぶことができます。単独で使えますが、ほかの上鍵盤の音色と組み合わせることもできます。

①音色をひとつ選びましょう。

音色を選ぶ4つのボタンの中から、ひとつ選んで押してください。(キャンセルとアンサンブルは音色を選ぶボタンではありません)

ワウプラス……ワウ効果のきいた金管楽器の音

ストリング……バイオリン合奏のようなサウンド

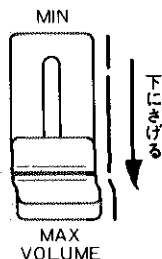
ブラス……トランペット合奏のようなサウンド

ボーカル……男声合唱のようなサウンド

★2つ以上のボタンを一緒にセットすると、下段または右側の音色が優先します。

②音量をコントロールします。

ボリュームのスライドレバーで、アンサンブルボイスの音量を調節してください。下にさげるほど音が大きくなります。



③上鍵盤をおさえると、選んだ音色がでてきます。

④アンサンブルのボタンを押して、上鍵盤トーンレバーと組み合わせてみましょう。

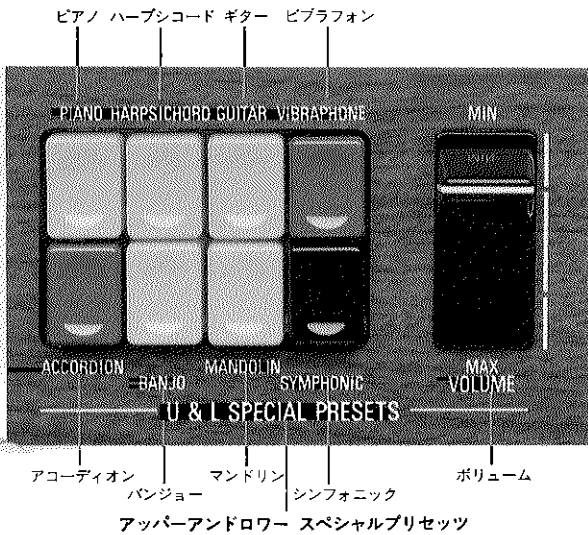
上鍵盤トーンレバーとアンサンブルボイスの音色を組み合わせたいときは、右下のアンサンブルのボタンを押してください。より豊かなサウンドが作りだせます。

★アンサンブルボイスを使っているときは、アンサンブルのボタンを押さないと、上鍵盤トーンレバーの音色はでなくなります。

★アンサンブルのボタンを入れたときは、アンサンブルボイスの立ちあがり早くなり、短いサステインもなくなります。

●キャンセル

アンサンブルボイスが必要でないときは、キャンセルのボタンを押してください。



スペシャルプリセット

ピアノやビブラフォンなどいろいろな楽器特有の響きが、あらかじめセットされている音色です。ほかの上鍵盤の音色と組み合わせたり、下鍵盤に移して使うこともできます。(11ページを参照してください)。ここではまず、上鍵盤から単独でだしてみましょう。

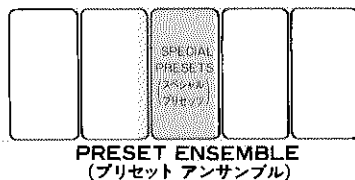
①音色をひとつ選びましょう。

楽器音を選ぶボタンは7つありますから、だしてみたい音色のボタンをひとつ選んで押してください。(シンフォニックは音色を選ぶボタンではありません)

★2つ以上のボタンを一緒にセットすると、下段または右側の音色が優先します。

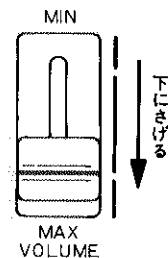
②スペシャルプリセットのタブレットを入れましょう。

上鍵盤の左横にあるプリセットアンサンブルの5つのタブレットのうち、黄色のスペシャルプリセットを入れてください。このタブレットがスペシャルプリセットのスイッチになっています。



③音量をコントロールします。

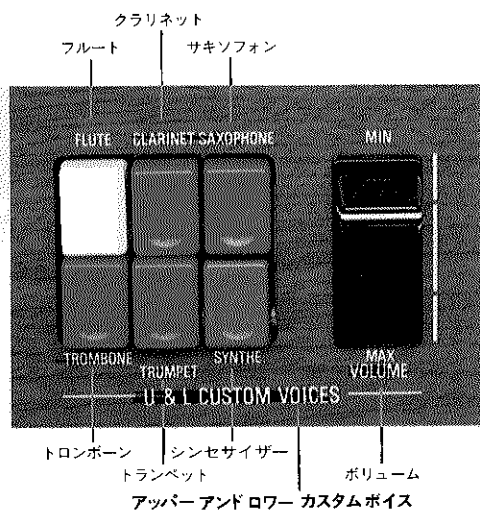
ボリュームのスライドレバーでスペシャルプリセットの音量を調節してください。下にさげるほど音が大きくなります。



④上鍵盤をおさえると、選んだ音色がでできます。

⑤シンフォニック効果を加えてみましょう。

黒のシンフォニックのボタンを入れると、選んだスペシャルプリセットの音がひろがりのある響きになります。合奏しているときのような豊かな感じにしたいときは、このシンフォニックボタンを押してください。



カスタムボイス

いろいろな楽器特有の響きがセットされている音色ですが、音量、音色が微妙に変化するため、より実際の楽器音に近づいています。ほかの上鍵盤の音色と組み合わせたり、下鍵盤に移して使うこともできます。(11ページを参照してください。) それでは、上鍵盤から単独でだしてみましよう。

カスタムボイスの音は単音ででてくるようになっていて、鍵盤をいくつか同時におさえると、一番高い音だけがでてきます。

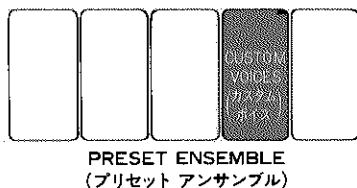
① 音色をひとつ選びましょう。

6つの楽器音のなかから、だしてみたい音色のボタンをひとつ選んで押してください。

★2つ以上のボタンを一緒にセットすると、下段または右側の音色が優先します。

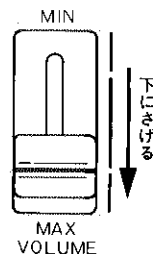
② カスタムボイスのタブレットを入れましょう。

上鍵盤の左横にあるプリセットアンサンブルの5つのタブレットのうち、赤のカスタムボイスを入れてください。このタブレットがカスタムボイスのスイッチになっています。



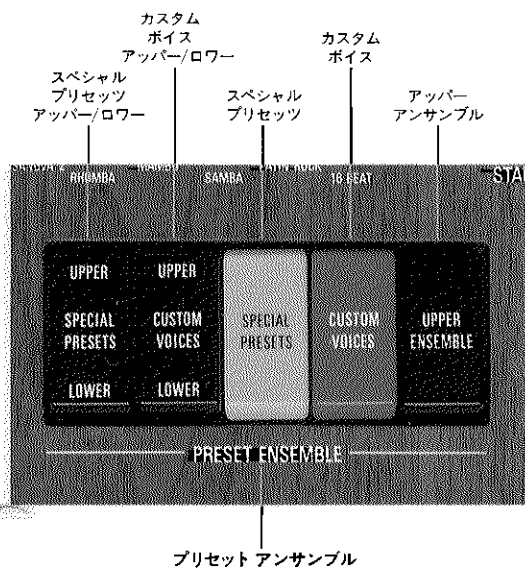
③ 音量をコントロールします。

ボリュームのスライドレバーでカスタムボイスの音量を調節してください。下にさげるほど音が大きくなります。



④ 上鍵盤をおさえると、選んだ音色がでてきます。

鍵盤をいくつか同時におさえると、一番高い音だけがでてきますので、ほかの音色と組み合わせてブロック奏をすれば、最高音のメロディー部だけにカスタムボイスの音色が重なり、立体的なサウンドが楽しめます。



プリセットアンサンブル

スペシャルプリセット音色とカスタムボイス音色のいろいろな使い方を決める機能です。5つのタブレットの入れ方で、上鍵盤で組み合わせたり、下鍵盤に移して使うことができます。

●上鍵盤から単独で出す場合。

9ページと10ページで説明しているように、スペシャルプリセット、またはカスタムボイスのタブレットを入れると、上鍵盤から単独で出すことができます。

上鍵盤からでてくる音色	タブレットのセット
スペシャルプリセット	
カスタムボイス	
スペシャルプリセット カスタムボイス	

●上鍵盤トーンレバー・アンサンブルボイスと組み合わせてみましょう。

右端のアッパーアンサンブルのタブレットを入れると、セットしている上鍵盤トーンレバーやアンサンブルボイスの音色と組み合わせることができます。上鍵盤トーンレバーとアンサンブルボイスを組み合わせているときは、その両方と組み合わせられます。

上鍵盤からでてくる音色	タブレットのセット
スペシャルプリセット 上鍵盤トーンレバー・アンサンブルボイス	
カスタムボイス 上鍵盤トーンレバー・アンサンブルボイス	
スペシャルプリセット カスタムボイス 上鍵盤トーンレバー・アンサンブルボイス	

●下鍵盤に移してみましょう。

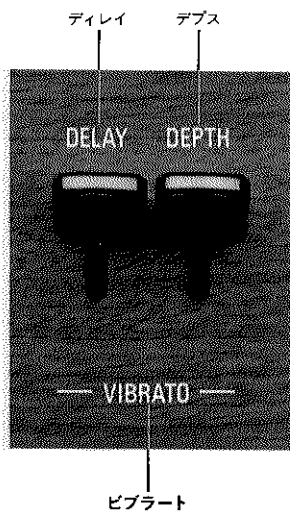
2つのアッパー/ロワーのタブレットを使えば、スペシャルプリセットとカスタムボイスの音色が下鍵盤に移り、下鍵盤トーンレバーの音色と組み合わせられます。下鍵盤から単独で出した場合は、下鍵盤トーンレバーをすべて切ってください。

下鍵盤からでてくる音色	タブレットのセット
スペシャルプリセット 下鍵盤トーンレバー	
カスタムボイス 下鍵盤トーンレバー	
スペシャルプリセット カスタムボイス 下鍵盤トーンレバー	

アッパー/ロワーのタブレットとアッパーアンサンブルのタブレットを一緒に入れることもできますから、ここに示したタブレットのセットのほかにもいろいろな使い方ができます。例えばスペシャルプリセットは下鍵盤に移し、カスタムボイスは上鍵盤で組み合わせるといったような使い方ができます。

★オートベース/コードを使っているときは、スペシャルプリセットを下鍵盤に移すことはできません。また、シングルフィンガーコードを使っているときは、カスタムボイスを下鍵盤に移すことはできません。(20ページを参照してください)

音に表情をつけて、豊かな響きに。



ビブラート

音をこきざみにふるわせ、うるおいをもたせる効果です。デプスとディレイの2つのレバーがありますが、セットのしかたによって次の2種類のビブラートが得られます。

●ふつうのビブラートをかけてみましょう。(上・下鍵盤)

デプスのレバーを下にさげるだけで、上鍵盤と下鍵盤の音にビブラートがかかります。クリックストップ式になっていて、下にさげるほど音のふるえ方が大きくなります。

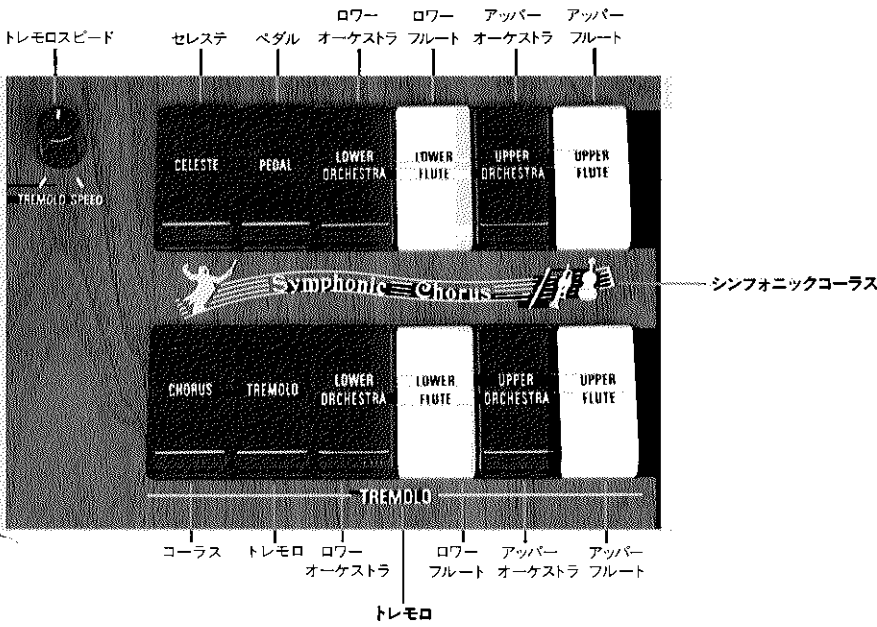
●ディレイビブラートをかけてみましょう。

デプスのレバーと一緒にディレイのレバーを入れると、上鍵盤の音にディレイビブラートがかかります。これは、上鍵盤をおさえてから、少しおくれて音がふるえはじめる効果で、ディレイのレバーを下にさげるほど、ふるえはじめるまでの時間が長くなります。ストリングの音色などにかけて、表情豊かな演奏をしてみましょう。

★ディレイビブラートは、デプスのレバーも一緒に入れなければかかりません。

★上・下鍵盤を同時に弾いているとき、下鍵盤の音にも上鍵盤と同じタイミングでディレイビブラートがかかります。





トレモロ

音にうねりをもたせ、うるおいと広がりのある響きにする効果です。6つのタブレットの操作によって、上・下鍵盤のトーンレバー音色に効果を加えることができます。

①まず、トレモロかコーラスのタブレットを入れます。

左側の2つのタブレットによって、うねりの速さを決めてください。

タブレット	役割
トレモロ	速いうねりのスイッチ
コーラス	ゆっくりしたうねりのスイッチ

★2つ一緒に入れるとトレモロが優先します。

②効果を加える音色を選びましょう。

右側の4つのタブレットによって、トレモロ効果を加えるトーンレバー音色を選んでください。

タブレット	トレモロ効果がかかる音色
アッパーフルート	上鍵盤トーンレバーのフルート音色
アッパーオーケストラ	上鍵盤トーンレバーのオーケストラ音色
ローワーフルート	下鍵盤トーンレバーのフルート音色
ローワーオーケストラ	下鍵盤トーンレバーのオーケストラ音色

●トレモロスピード

左上にあるトレモロスピードのつまみは、トレモロ効果のうねりの速さを微妙にコントロールするものです。普通は、中央の位置にセットしておきますが、右に回すとうねりが速くなり、左に回すと遅くなります。トレモロのタブレットを入れているときに使ってください。

シンフォニックコーラス

音に広がりをもたせ、多くの楽器で合奏しているような豊かな響きにする効果です。6つのタブレットの操作によって、上・下・ペダル鍵盤のトーンレバー音色に効果を加えることができます。

●効果を加える音色を選びましょう。

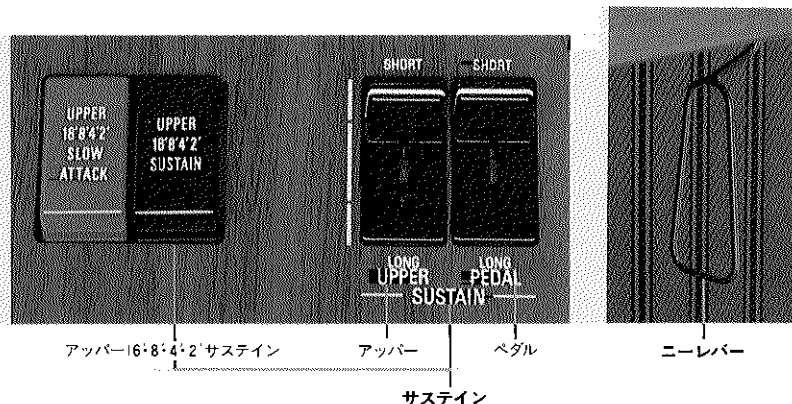
右側の5つのタブレットによって、シンフォニックコーラスを加えるトーンレバー音色を選んでください。タブレットを入れるだけで効果がかかります。

タブレット	シンフォニックコーラスがかかる音色
アッパーフルート	上鍵盤トーンレバーのフルート音色
アッパーオーケストラ	上鍵盤トーンレバーのオーケストラ音色
ローワーフルート	下鍵盤トーンレバーのフルート音色
ローワーオーケストラ	下鍵盤トーンレバーのオーケストラ音色
ペダル	ペダル鍵盤トーンレバーの音色

●セレステを使ってみましょう。

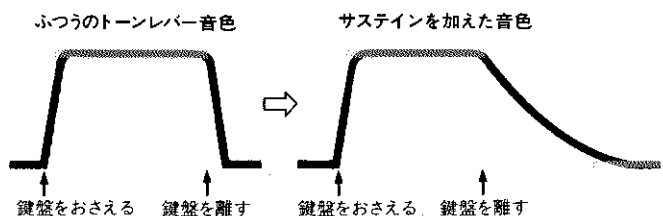
上の5つのタブレットのどれかを入れているとき、このタブレットを一緒に入れてみましょう。シンフォニックコーラスのかかりかたがゆるやかになり、深みのある独特な響きが得られます。

★トレモロ効果とシンフォニックコーラス効果は組み合わせて使えます。ただし、同じ表示のあるタブレット (UPPER FLUTEとUPPER FLUTEなど) を一緒に入れると、シンフォニックコーラスが優先されます。例えば、フルート音色にはトレモロをかけ、オーケストラ音色にはシンフォニックコーラスをかける、というようにお使いください。



サステイン

鍵盤から指や足を離したあと、音に余韻をつける効果です。ふつうのトーンレバー音色は、鍵盤から指や足を離すとすぐに消えてしましますが、サステイン効果を使えば余韻が残り、自然な感じで消えていきます。



●上鍵盤の音にサステインをかけてみましょう。

アッパー16・8・4・2サステインのタブレットを入れることでかかります。余韻の長さは、アッパーのスライドレバーでコントロールしてください。手前に引くほど、余韻が長くなります。このアッパーサステインがかかるのは、上鍵盤トーンレバーの16・8・4・2の音色と、スペシャルプリセットのピアノ、ハーブシコード、ギターの色です。

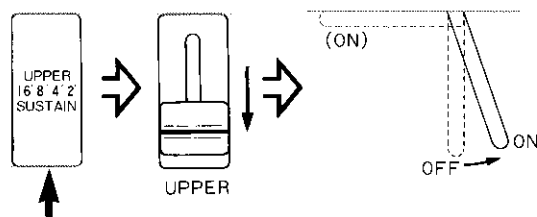
- ★スペシャルプリセットの音色にかかるサステインの長さは一定で、アッパーのスライドレバーで調節することはできません。
- ★アンサンブルボイスの音色は、アンサンプルのボタンを入れると余韻がなくなりますが、このときアッパーサステインをセットすると余韻をつけることができます。
- ★アッパー16・8・4・2サステインのタブレットを入れると、上鍵盤トーンレバーのアタック4の音がでなくなります。

●ペダル鍵盤の音にサステインをかけてみましょう。

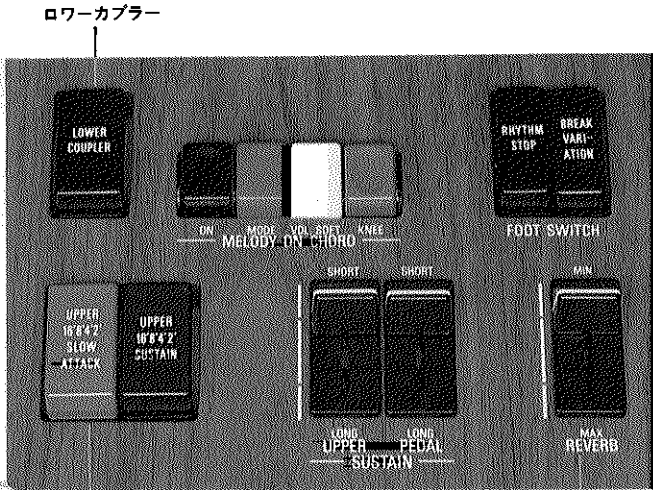
ペダルのスライドレバーを手前に引くだけで、ペダル鍵盤の音にサステインがかかります。手前に引くほど、余韻が長くなります。

●ニーレバーを使って、アッパーサステインをコントロールしてみましょう。

上鍵盤のサステイン効果は、ニーレバーを使うことで、演奏中でも自由にかけることができます。まず、タブレットとスライドレバーでアッパーサステインをセットし、鍵盤の下にあるニーレバーをおこしておきます。おこした状態ではサステインがかかりませんが、演奏中にサステインをかけたいところへきたらニーレバーを右ひざで右に押してください。押している間だけサステインがかかります。

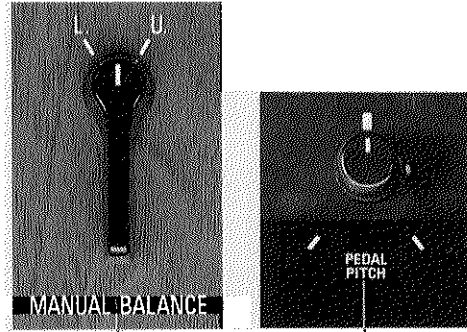


- ★スペシャルプリセットのビブラフォンの音色は、ニーレバーの操作でサステインのコントロールができるようになります。



↑アッパー16・8・4・2スローアタック

リバーブ

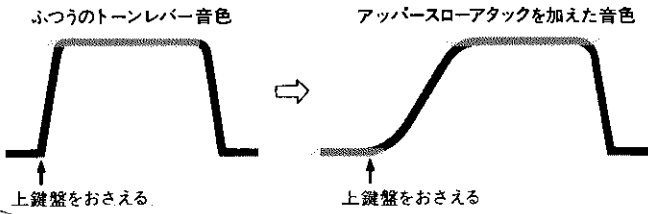


マニュアルバランス

ペダルピッチ

アッパースローアタック

音の立ちあがりをゆるやかにして、やわらかい感じの響きにする効果です。アッパー16・8・4・2'スローアタックのタブレットを入れると、上鍵盤トーンレバーの16・8・4・2'の音色にこの効果がかかります。



★アンサンブルボイスの音色は、アンサンブルのボタンを入れると立ちあがり早くなりますが、このときアッパースローアタックを入れると立ちあがり遅くなります。

ローカプラー

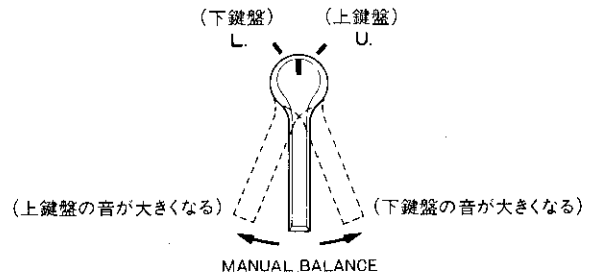
下鍵盤トーンレバーの音に、1オクターブ音程の高い音を自動的に重ねて、厚みのあるサウンドにする効果です。8'のトーンレバーをセットしているときに、ローカプラーのタブレットを入れれば、セットした音色を1オクターブ高くした4'の音色と一緒にでできます。4'のトーンレバーをセットしているときは、2'の音色と一緒にでできます。

リバーブ

音に残響をつけ、大きなホールで演奏しているような響きにする効果です。リバーブのスライドレバーを手前に引くことで、上・下鍵盤の音に効果がかかり、手前に引くほど残響が長くなります。

マニュアルバランス

上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスを調節するレバーです。U.の方へセットすると上鍵盤の音量が大きくなり、L.の方へセットすると下鍵盤の音量が大きくなります。ふつうは中央よりややU.よりの位置にセットします。

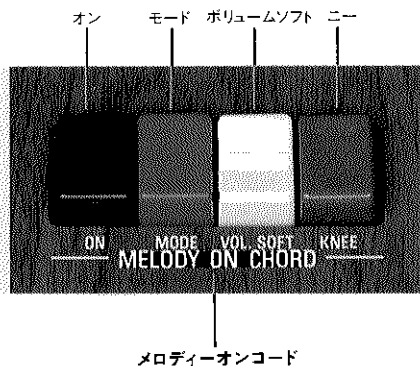


ペダルピッチ

ペダル鍵盤の音程を微妙にコントロールするつまみで、付属端子の奥についています。中央の位置が標準の音程ですから、好みによって調節してください。

効果

5 メロディーにハーモニーがつけられます。



メロディーオンコード

上鍵盤で弾くメロディーに、ハーモニーを自動的につける機能です。下鍵盤で弾くコードの音が、上鍵盤で弾く音の下に重なってでてきますから、初心者の方にはむずかしいメロディーのブロック奏が簡単に得られます。

① まず、オンのボタンを押しましょう。

② 上鍵盤トーンレバー、またはアンサンブルボイスをセットします。

メロディーオンコードの音色として、上鍵盤トーンレバー、またはアンサンブルボイスをセットしてください。両方の音色を組み合わせてもかまいません。(6~8ページを参照してください)

★スペシャルプリセットとカスタムボイスの音色は、メロディーオンコードの音としてはでてきませんが、メロディーを弾く音色として、アンサンブルさせることはできます。

③ 下鍵盤の音色をセットします。

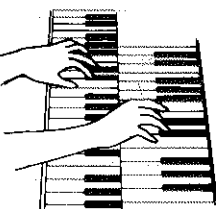
メロディーオンコードは、上鍵盤の音色ででてきますので、下鍵盤ではどの音色をセットしてもかまいません。

④ 下鍵盤でコードをおさえ、上鍵盤でメロディーを弾いてみましょう。

メロディーの下に美しいハーモニーが重なってでてきたことと思います。ハーモニーの音は、下鍵盤でおさえたコードと同じ音名の音になっています。

★下鍵盤から指を離すと、メロディーオンコードの音はでなくなります。

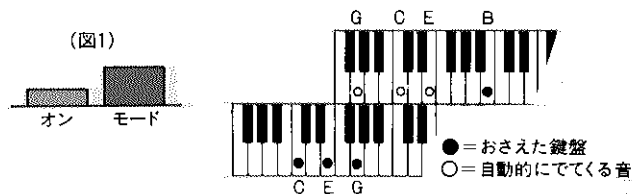
★メロディーオンコードの音としてでてくる和音は、同時に最高3音までです。



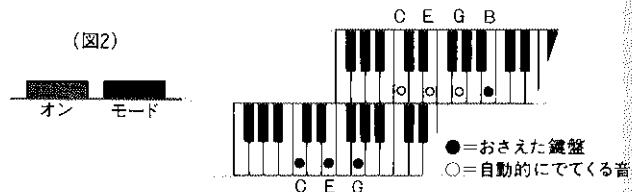
⑤ モードのボタンを押してみましょう。

モードのボタンは、メロディーオンコードの音がでてくる音域を変える働きをします。

モードを入れない状態では、ハーモニーがメロディーよりやや離れた広い音域からでてきて、上鍵盤でメロディーとコードを弾いたときのような響きになります。(図1)



モードのボタンを入れると、メロディーに近くてせまい音域からでてきて、上鍵盤でブロック奏をしているような響きになります。(図2)

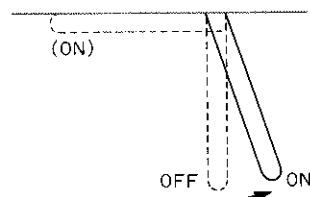


⑥ ボリュームソフトのボタンで音量を調節します。

メロディーオンコードの音は、上鍵盤で弾く音よりやや小さい音量ででてくるようになっていますが、ボリュームソフトのボタンを入れると、さらに音量を小さくすることができます。

●ニーレバーでメロディーオンコードがコントロールできます。

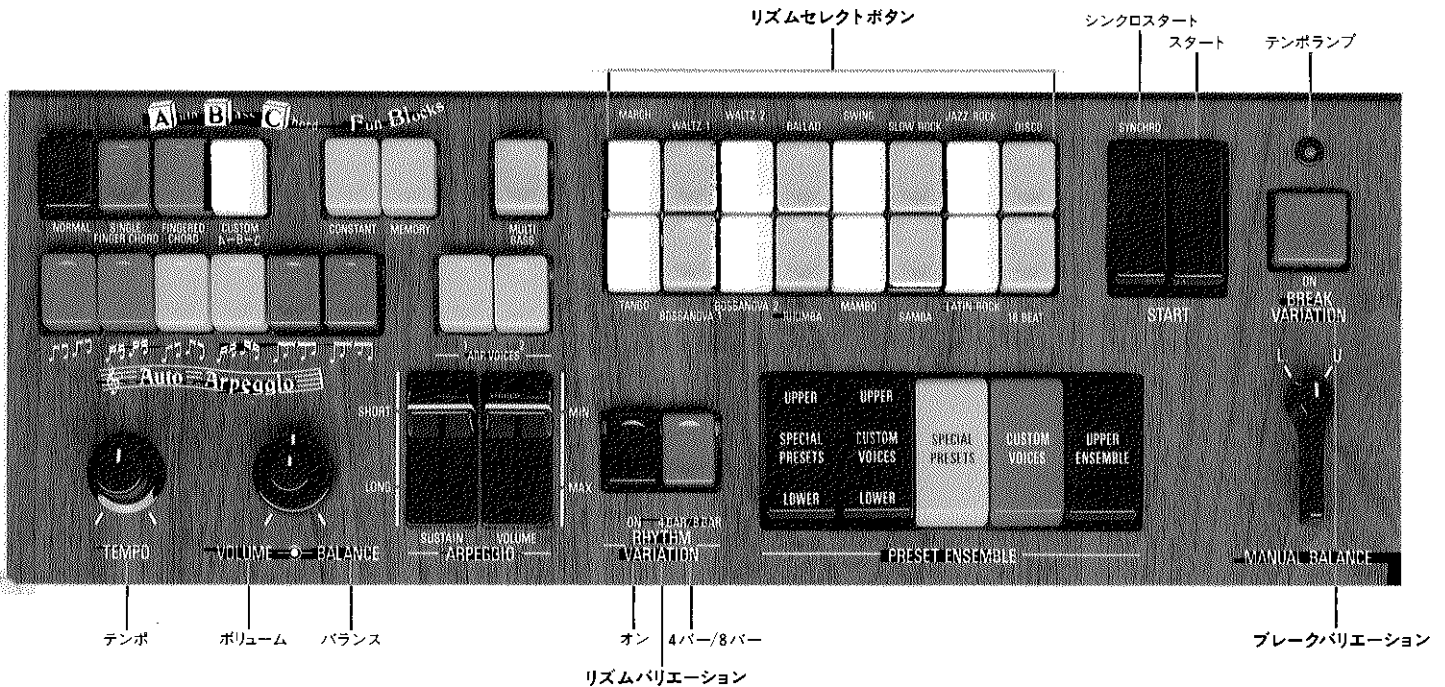
ニーのボタンを押しておけば、ニーレバーによって演奏中でも自由にメロディーオンコードが得られます。メロディーオンコードの音をだしたいところにきたら、ニーレバーを右に押ししてください。押ししている間だけメロディーにハーモニーが重なります。なお、アッパーサステインをセットすれば、メロディーオンコードとサステインが同時にコントロールされます。



●オートベース/コードと一緒に使うこともできます。

オートベース/コードと一緒にセットしておけば、より簡単にメロディーオンコードの音を得られます。シングルフィンガーコードを入れ、下鍵盤を指1本でおさえるだけで、コードの音がメロディーオンコードの音としてもでてきます。また、メモリーのボタンも一緒に入れておけば、下鍵盤から指を離してもメロディーオンコードの音を得られます。(20、21ページを参照してください)

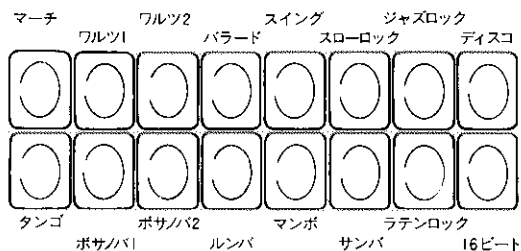
リズムを加えてみましょう。



オートリズム

シンバル、ドラム、ボンゴといった打楽器の音で、自動的に歯切れのよいリズムをきざむ機能です。なお、オートベース/コードやオートアルペジオを使うときは、あらかじめオートリズムをセットしておきます。(20～23ページを参照してください)

①まず、リズムセレクトボタンによって、だしたいリズムを選びましょう。



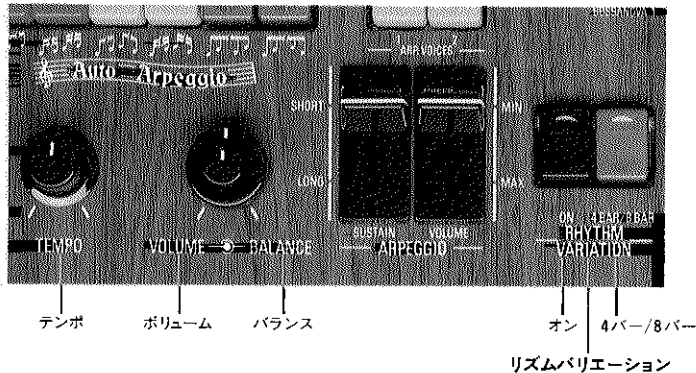
★2つ以上のボタンを一緒にセットすれば、リズムを組み合わせることができます。ただし、上・下に並んでいるボタンは組み合わせられません。

②スタートのタブレットを入れて、リズムをスタートさせましょう。

2つのスタートタブレットのうち、右側のスタートを入れると選んだリズムがスタートします。

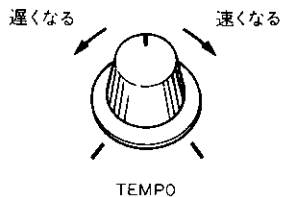
●シンクロスタート

スタートのかわりに、シンクロスタートのタブレットを入れると、リズムはすぐにスタートせず、下鍵盤かペダル鍵盤をおさえると同時にスタートします。オートベース/コードやオートアルペジオを使うとき、このシンクロスタートを入れておけば、自動伴奏とリズムを同時にスタートさせることができます。



③リズムの速さをコントロールします。

テンポのつまみで、リズムの速さを調節してください。

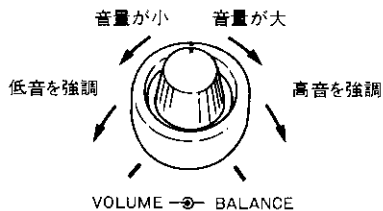


●テンポランプ

スタートタブレットの横にあるランプは、リズムの速さに合わせて点滅しますから、タイミングをとるのに便利です。スタートしているときはリズムの小節の1拍目に点滅しますが、シンクスタートを入れて、まだスタートさせていない間は、4分音符の単位で点滅します。

④リズムの音量とバランスをコントロールします。

内側のボリュームのつまみでリズムの音量を調節してください。外側のバランスのつまみでは、リズム音の高音と低音のバランスを調節します。

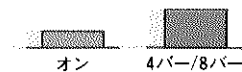


リズムバリエーション

4小節目ごと、または8小節目ごとに、選んだリズムの変化したパターン(バリエーション)を自動的に入れる機能です。フレーズの切れ目でリズムが変化しますから、より楽しい演奏ができます。

①4小節目ごとにバリエーションを入れてみましょう。

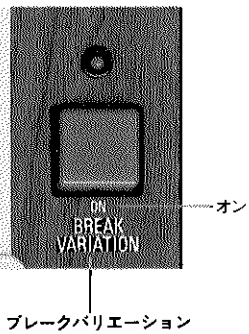
オンのボタンだけを押すと、4小節目ごとにリズムが自動的に変化します。



②8小節目ごとにバリエーションを入れてみましょう。

オンのボタンと4バー/8バーのボタンの両方を押すと、8小節目ごとにリズムが自動的に変化します。





ブレイクバリエーション

リズムをだしているとき、フレーズの切れ目など必要なところで、変則的なリズムパターンに切りかえることができる機能です。リズムをスタートさせる前にイントロを入れることもできます。

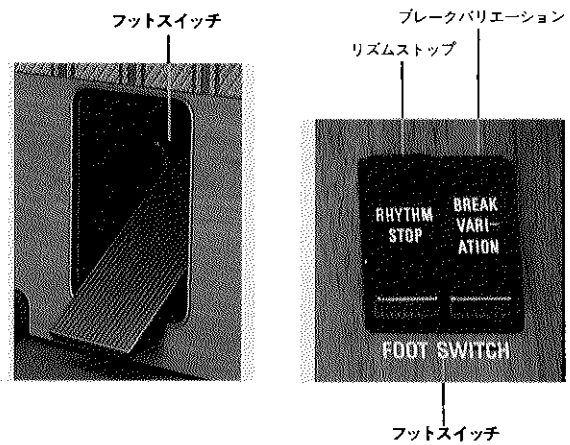
① ブレイクバリエーションをだしてみよう。

リズムをスタートさせておき、小節の始めか途中で、緑色のオンのボタンを押し、すぐ指を離してください。ランプが点灯して、その小節の終わりまで変則的なリズムに切りかわり、次の小節は元のリズムにもどります。もっと長くブレイクバリエーションをだしたいときは、オンのボタンを押し続けてください。



② イントロをだしてみよう。

リズムをスタートさせる前にオンのボタンを押しておき、スタートのタブレットを入れてください。選んだリズムがスタートする前に、2小節のイントロがでてきます。リズムのタイミングをとるのに大変便利です。



フットスイッチ

エクспRESSIONペダルの左奥についているフットスイッチを使えば、必要なところでリズムをストップさせたり、ブレイクバリエーションに切りかえたりできます。

● リズムが止められます。

リズムストップのタブレットを入れておけば、フットスイッチを左に押すことでリズムが止まります。もう一度押せば再びスタートします。曲の終わりなどでお使いください。

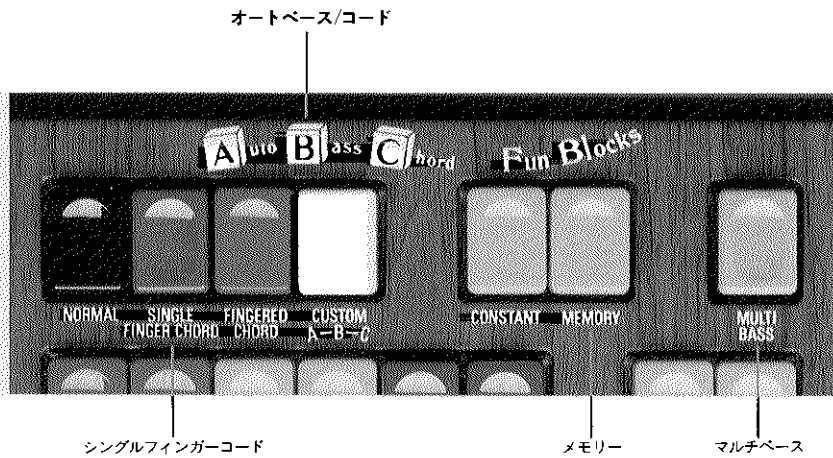
● ブレイクバリエーションに切りかえられます。

ブレイクバリエーションのタブレットを入れておけば、フットスイッチを左に押すことで変則的なリズムに切りかわります。オンのボタンを押さなくても、演奏しながら自由にブレイクバリエーションが得られ、大変便利です。

★ブレイクバリエーションのパターンをイントロとして使うこともできます。リズムストップのタブレットを入れ、スタートさせたリズムをフットスイッチによっていったんストップさせます。そこで、ブレイクバリエーションのオンのボタンを押し、もう一度フットスイッチを押せば、ブレイクバリエーションのパターンがイントロとして1小節入ってきます。

★リズムストップとブレイクバリエーションのタブレットを2つとも入れた場合は、リズムストップが優先します。

自動伴奏を楽しみましょう。



オートベース/コード

下鍵盤で演奏するコード(和音)伴奏と、ペダル鍵盤で演奏するベース伴奏が自動的にでてくる機能です。初心者の方から、鍵盤楽器の経験がある方まで、どなたにもお楽しみいただけるように、シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムABCの3つの使い方ができます。さらに、メモリーやマルチベースという便利な機能もついています。

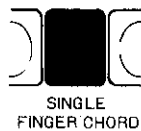
指1本で自動伴奏をだしてみよう。

[シングルフィンガーコード]

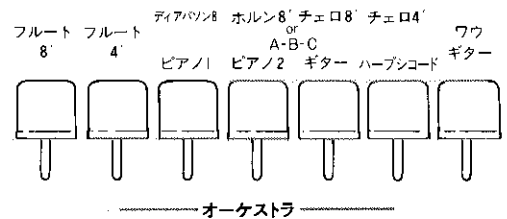
- ①オートリズムをセットしておきます。(17、18ページを参照してください)

シンクロススタートのタブレットを入れておけば、リズムと同時に自動伴奏をスタートさせることができます。

- ②緑色のシングルフィンガーコードのボタンを押します。

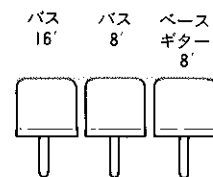


- ③下鍵盤トーンレバーをセットします。



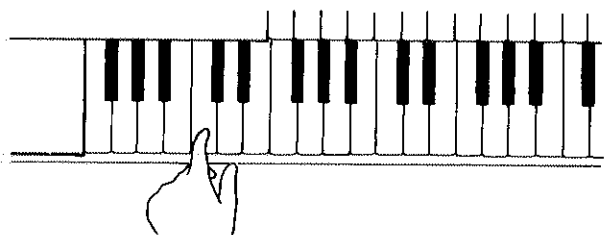
4つのオーケストラ音色をセットしてみましょう。これらの音色がそれぞれピアノ1、ピアノ2、ギター、ハーブシコードの音色(ABCトーン)に切りかわり、リズムに合わせて自動伴奏されます。なお、フルート音色はコードの持続音となり、ワウギター音色はABCトーンとはちがったきざみ方になります。

- ④ペダル鍵盤トーンレバーをセットします。

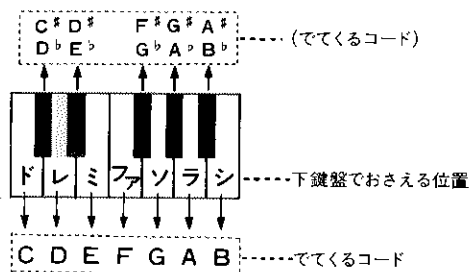


これらの音色が、リズムに合わせて自動的に演奏されるベース音になります。

⑤ 下鍵盤をひとつだけおさえてみましょう。

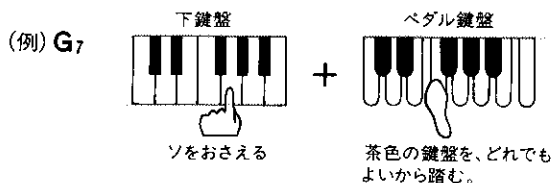


リズムに合わせて、コード伴奏とベース伴奏が自動的にでてきたことと思います。このときでてくるコードは、下鍵盤でおさえた音を根音とする和音(メジャーコード)になります。ですから、コードネームが書かれている楽譜で、C(ド・ミ・ソの和音)のところはドを、G(ソ・シ・レの和音)のところはソをおさえればよいわけです。

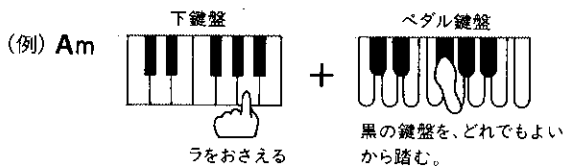


●セブンスコードやマイナーコードなどもだすことができます。G₇(ジーセブンスコード)やAm(エーマイナーコード)といったコードは、ペダル鍵盤と一緒に踏めばだすことができます。

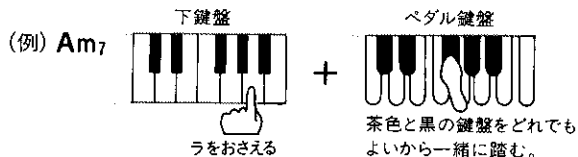
[セブンスコードの場合]



[マイナーコードの場合]



[マイナーセブンスコードの場合]



●メモリーを使ってみましょう。

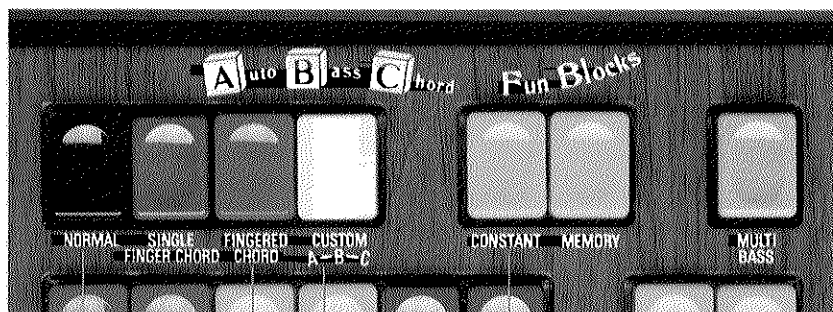
メモリーのボタンを入れると、下鍵盤から指を離れたあとも自動伴奏がリズムとともに鳴り続けます。この機能を使うと、コードが変わるところだけで鍵盤をおさえなおせばよいわけです。なお、フィンガードコードやカスタムABCで伴奏しているときも使えます。



●マルチベースを使ってみましょう。

マルチベースのボタンを入れると、自動伴奏のうちベース音のパターンを変化させることができます。歩くようなウォーキングベースなど、リズムによっていろいろなパターンが得られます。なお、フィンガードコードやカスタムABCで伴奏しているときも使えます。

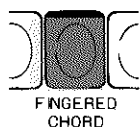




ノーマル
フィンガードコード
カスタム ABC
コンスタント

コードをおさえて自動伴奏をだしてみよう。 [フィンガードコード]

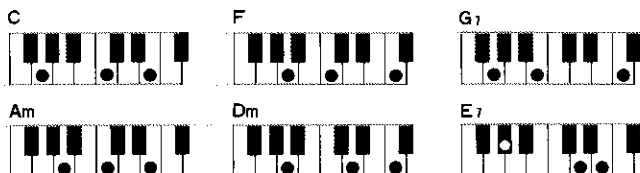
- ①オートリズムをセットしておきます。
- ②赤のフィンガードコードのボタンを押します。



- ③下鍵盤トーンレバーとペダル鍵盤トーンレバーをセットします。
- ④下鍵盤でコードをおさえてみましょう。

リズムに合わせて、コード伴奏とベース伴奏が自動的にでてきたことと思います。コード伴奏は、下鍵盤でおさえたとおりのコードでできまれますから、いろいろなコードを自由にだすことができます。なお、ベース伴奏はおさえたコードに合った音で自動伴奏されます。

[コードのおさえ方の例]



下鍵盤とペダル鍵盤で別々に自動伴奏をだしてみよう。 [カスタムABC]

- ①オートリズムをセットしておきます。
- ②白のカスタムABCのボタンを押します。



- ③下鍵盤トーンレバーとペダル鍵盤トーンレバーをセットします。
- ④下鍵盤でコードをおさえるとともに、ペダル鍵盤を踏みましょう。

コード伴奏は、下鍵盤でおさえたとおりのコードでできまされ、ベース伴奏は、ペダル鍵盤で踏んだ音をもとに自動的にでてきます。ベース伴奏のもとになる音を自由に選ぶことができるため、より高度な自動伴奏が得られます。

●コンスタント

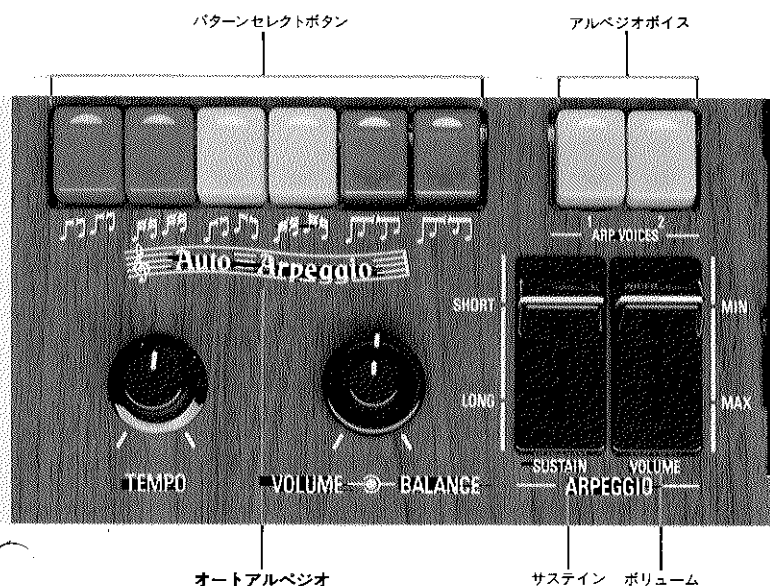
このボタンを押すと、リズムに連動してでていた自動伴奏が、リズムと切り離されます。したがって、コード伴奏はコードの持続音になり、ベース伴奏は単音ででてくるようになりますが、この伴奏の方が効果的な曲もあります。



●ノーマル

自動伴奏をキャンセルするボタンです。ふつうの伴奏をするときは、このボタンを押してください。





オートアルペジオ

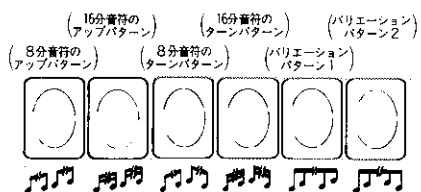
アルペジオとは、ハープやギターのように音を連続して奏でる分散和音的な奏法のことで、オートアルペジオを使えば、このアルペジオが自動的にでてきます。さざ波のような効果音としてバックに流し、華やかな演奏を楽しんでみましょう。

① オートリズムをセットしておきます。

(17, 18ページを参照してください)

シンクロススタートを入れておけば、リズムと同時にアルペジオがスタートして便利です。

② パターンセレクトボタンによって、アルペジオのパターンを選びましょう。

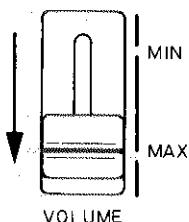


③ アルペジオボイスのボタンを押します。

アルペジオボイスのボタンは、アルペジオの音色をセットするもので、2は1より1オクターブ音程が高くなっています。なお、オートアルペジオのスイッチにもなっていますから、アルペジオが必要でないときは切ってください。

④ 音量をコントロールします。

ボリュームの 슬라이ドレバーでアルペジオの音量を調節してください。手前に引くほど大きくなります。

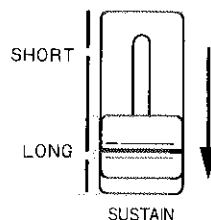


⑤ 下鍵盤をおさえてみましょう。

おさえた音をもとに、アルペジオがリズムに合わせて自動的にでてきます。

⑥ サステイン効果を加えてみましょう。

サステインの 슬라이ドレバーを手前に引くとアルペジオの音に余韻がつき、なめらかな感じのアルペジオがでてきます。手前に引くほど余韻は長くなります。

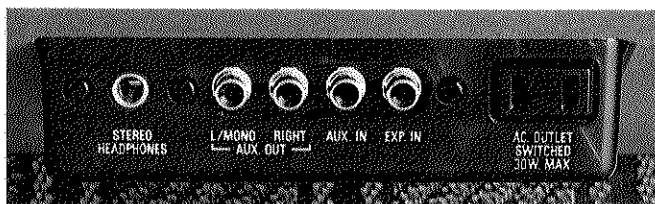


● オートベース/コードと一緒に使えます。

オートベース/コードとオートアルペジオと一緒にセットすれば、自動伴奏とアルペジオが同時にでて、より楽しい伴奏ができます。シングルフィンガーコードを使う場合は、指1本で下鍵盤をおさえるだけでコード伴奏とともに、そのコードをもとにしたアルペジオがでてきます。また、メモリーのボタンを押しておけば、下鍵盤から指を離してもアルペジオが鳴り続けます。

付属端子と音のエチケットについて

付属端子



● **STEREO HEADPHONES (ステレオヘッドホン端子)**
ステレオヘッドホンを接続する端子です。ヘッドホンを使えば、エレクトーン本体のスピーカーからは音がでなくなりますから、夜間でも周囲への迷惑を気にすることなく、心ゆくまで演奏をお楽しみいただけます。なお、モノラルヘッドホンを接続することもできます。〔インピーダンス390Ω〕

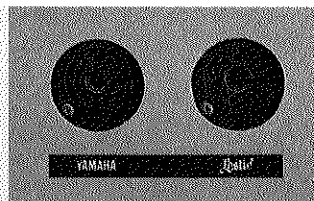
● **AUX. OUT L/MONO-RIGHT (ライン出力端子)**
アンプやトーンキャビネットと接続して、より迫力のあるサウンドをだしたいときに使う端子です。また、テープデッキのLINE-INジャックと接続すれば、エレクトーンの音を録音することができます。ステレオで出力させるときは、L/MONOとRIGHT両方に接続し、モノラルで出力させるときは、L/MONOに接続してください。〔インピーダンス470Ω〕

● **AUX. IN (ライン入力端子)**
ステレオやテープの音をエレクトーンのスピーカーからだしたいときに使う端子です。レコード・テープの音に合わせて演奏することができます。〔インピーダンス27KΩ〕

● **EXP. IN (エクスプレッション連動入力端子)**
シンセサイザーやリズムボックスなどと接続するときに使う端子です。接続した機器の音量は、エレクトーンのエクスプレッションペダルでコントロールできます。〔インピーダンス47KΩ〕

● **AC OUTLET (ACコンセント)**
エレクトーンの電源スイッチと連動しているコンセントで、テープレコーダーなどの電源としてお使いください。電気掃除機、アイロン、電気コタツなど、消費電力の大きな器具を絶対に使用しないでください。万一使用しますと、エレクトーン内部のヒューズがとび、故障の原因となります。〔許容電力30W〕

トーンキャビネットコネクター



演奏会、発表会などの際に、トーンキャビネットを接続すれば、よりダイナミックなサウンドが得られます。

- **YAMAHA (ヤマハ)**
電子トレモロ効果内蔵のヤマハトーンキャビネットに接続するコネクターです。(11ピン)
- **LESLIE (レスリー)**
レスリースピーカーに接続するコネクターです。(11ピン)

音のエチケット

私たちの日常生活と音は切っても切れない関係にあります。音がしなくなったら、それこそたいへんですが、いくらきれいな音でも雑音と同じように感じる時だってあります。気持ちよく演奏していても、まわりの人には迷惑な場合もあります。特に、人が眠るような時間に音をだすことは、さげなくてはなりません。いくら窓を閉め切っても、音はどこからか伝わっていきます。そんな時は、ぜひヘッドホンを使って心ゆくまで演奏をお楽しみください。

音についても私たちはお互いにゆずりあい、やさしい心づかいを示すのがエチケットです。美しい音楽を愛されると同時に、住みやすい環境を守ってくださいますよう、皆さまのご協力をお願いいたします。



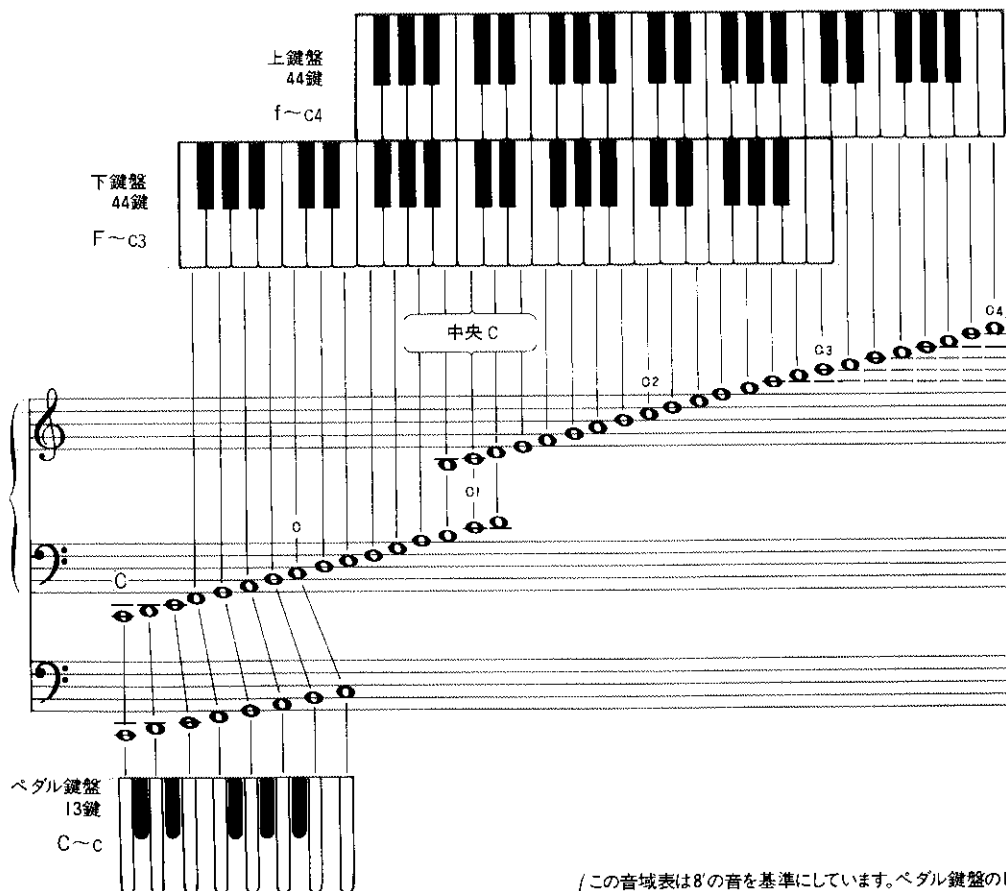
電子楽器専用ステレオヘッドホン
HP-50S(別売)

仕様と音域表

仕様

- 鍵盤
上鍵盤：44鍵 f~c4 (3 $\frac{1}{2}$ オクターブ)
下鍵盤：44鍵 F~c3 (3 $\frac{1}{2}$ オクターブ)
ペダル鍵盤：13鍵 C~c (1オクターブ)
- トーンレバー
上鍵盤：フルート16・8・5 $\frac{1}{4}$ ・4・2 $\frac{1}{2}$ ・2、トロンボーン16、クラリネット16、トランペット8、オーボエ8、ストリング8・4、アタック4・2 $\frac{1}{2}$ 、コンビネーション1・2
下鍵盤：フルート8・4、ディアバゾン8 (ピアノ1)、ホルン8 (ピアノ2)、チェロ8 (ギター)、チェロ4 (ハーブシコード)、ワウギター
ペダル鍵盤：バス16・8、ベースギター8
- アンサンブルボイス
セレクトボタン：キャンセル、ワウプラス、ストリング、プラス、ボーカル
コントロール：アンサンブル、ボリューム
- スペシャルプリセット
セレクトボタン：ピアノ、ハーブシコード、ギター、ビブラフォン、アコーディオン、バンジョー、マンドリン
エフェクト・コントロール：シンフォニック、ボリューム
カスタムボイス
セレクトボタン：フルート、クラリネット、サクソフォン、トロンボーン、トランペット、シンセサイザー
コントロール：ボリューム
- プリセットアンサンブル
アッパーアンサンブル、カスタムボイス、スペシャルプリセット、カスタムボイスアッパー/ロワー、スペシャルプリセットアッパー/ロワー
- エフェクト・コントロール
アタックレングス、ビブラト=アプス・ディレイ
トレモロ=アッパーフルート・アッパーオーケストラ・ロワーフルート・ロワーオーケストラ・トレモロ・コーラス・トレモロスピード
シンフォニックコーラス=アッパーフルート・アッパーオーケストラ・ロワーフルート・ロワーオーケストラ・ペダル・セレステ
サステイン=アッパー16・8・4・2・サステイン・アッパー・ペダル、ロワーカブラー、アッパー16・8・4・2・スローアタック、リバーブ、ペダルピッチ、マスターボリューム、エクスペッションペダル、マニュアルバランス、ニーレバー、フットスイッチ
- メロディーオンコード
オン、モード、ボリュームソフト、ニー
- オートリズム
セレクトボタン：マーチ、ワルツ1、ワルツ2、バラード、スイング、スローロック、ジャズロック、ディスコ、タンゴ、ボサノバ1、ボサノバ2、ルンバ、マンボ、サンバ、ラテンロック、16ビート
コントロール：スタート、シンクロスタート、テンポ、ボリューム、バランス、テンポランプ、リズムストップ(フットスイッチ)
リズムバリエーション：オン、4/4バー/8/4バー
ブレイクバリエーション：オン、ブレイクバリエーション(フットスイッチ)
- オートベース/コード
ノーマル、シングルフィンガーコード、フィンガードコード、カスタムABC、コンスタント、メモリー、マルチベース
- オートアルペジオ
セレクトボタン：6パターン、ボイス：1・2
エフェクト・コントロール：サステイン、ボリューム
- その他
パワースイッチ、パイロットランプ
- 付属端子
ヘッドホン、AUX. OUT (L/MONO・RIGHT)、AUX. IN、EXP. IN、ACコンセント、トーンキャピネットコネクタ―[ヤマハ・レスリー]
- メインアンプ
30W (8 Ω) \times 2
- スピーカー
メインスピーカー30cm \times 12cm \times 5cm、サイドスピーカー20cm
- 定格電圧100V、定格消費電力80W、定格周波数50/60Hz
- 寸法・重量
本体：間口114.4cm、奥行58.0cm、高さ97.5cm(譜面台を立てたとき112.5cm)、重量69kg
椅子：間口66.0cm、奥行31.5cm、高さ55.5cm、重量7kg
- 外装
アメリカンウォルナット・ポリエステルフィニッシュ

音域表

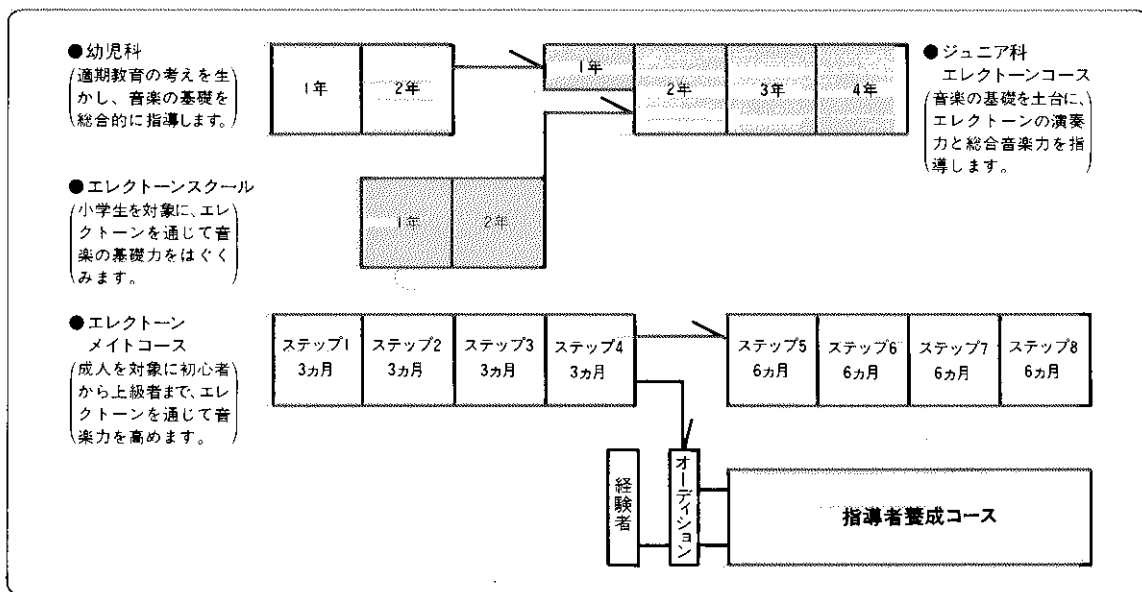


(この音域表は8'の音を基準にしています。ペダル鍵盤の16'の音は記載されている音域より1オクターブ低くなります。)

エレクトーン教室のご案内



お子さまに正しい音楽教育をお考えのかたや、エレクトーンを自由自在に弾けるようになりたいというかたのために、ヤマハではエレクトーン教室を全国に開設しています。エレクトーン教室は、ご自宅や学校、お勤め先のすぐ近くにあり、どの教室でも《ヤマハ音楽教育システム》のカリキュラムによる指導を行っていますから、地区によって水準が異なるようなことはありません。エレクトーンをよりお楽しみいただくためにも、ぜひお近くのヤマハエレクトーン教室をご利用ください。



エレクトーンの出版物

●ABC曲集

シングルフィンガープレイを中心にしたファミリー向け曲集。

●エレクトーンメトード

エレクトーン演奏の基礎を体系的に学べる教則本です。

●ピアノからエレクトーンへ

ピアノ経験者のために編集したテキストです。

●ひきながら学ぶエレクトーン和声

エレクトーン伴奏づけの基礎をまとめています。

●レッツプレイエレクトーン

13～10級の人のために編集されたサブテキストです。

●ジョイフルエレクトーン

初級者向けにアレンジされた曲が収められています。

●エレクトーンレパートリーシリーズ

9～6級を受験する人のためのレパートリー曲集です。

●エレクトーンヒット50シリーズ

ポケットサイズで一冊に50曲収めたメロディー譜曲集。

●エレクトーンファンファンファン

最新のヒット曲を中級者向けに編集しました。

●エレクトーンデュエット

レコードが付いたユニークな曲集です。

●エレクトーンラブサウンズシリーズ

愛をテーマにした名曲を選んだシリーズです。

●エレクトーンポピュラーシリーズ

ジャンル別にポピュラー音楽を選曲した曲集です。

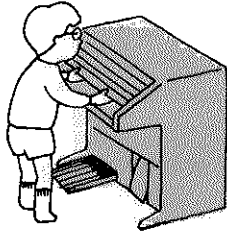
●エレクトーンクラシックシリーズ

クラシックの名曲をエレクトーン用にアレンジしました。

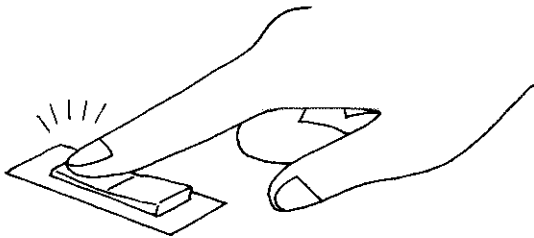
末永くお楽しみいただくために

エレクトーンをいつまでもお楽しみいただくためには日頃のお手入れがたいせつです。

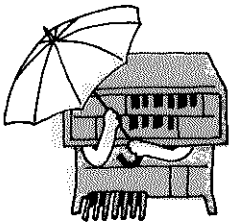
- スライドブタは上に持ち上げないようフタガイドにそって前後にゆっくりと開閉してください。



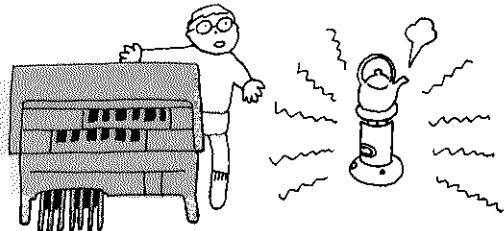
- スライドブタの上には重い物をのせないようにしてください。
- スライドブタの上にヘアピンやコインなどを置いたまま開けると、それが内部にはいつて故障の原因になることがあります。
- 使用後は必ず電源スイッチを切ってください。



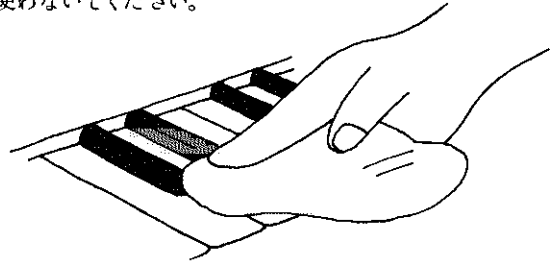
- 直射日光はさけてください。



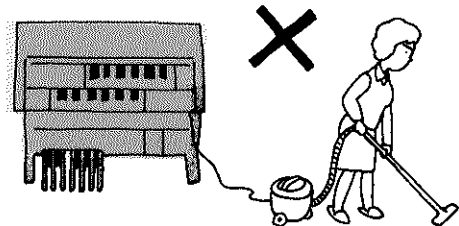
- 外装の塗装はビニールと化学反応をおこしますので、ビニール製のカバーはご使用にならないでください。
- 湿気や熱もさけてください。



- 鍵盤のお手入れは水を含ませた柔らかな布できれいにふきとって行ってください。アルコールやシンナー、ベンジンなどの薬品は絶対使わないでください。



- テレビ、ラジオをエレクトーン近くでお使いになると、テレビ、ラジオに雑音が入る場合があります。そのときはエレクトーンからできるだけ離れてご使用ください。
- エレクトーンには交換用のヒューズはついていませんが、もしヒューズが切れたと思われる場合でも、絶対にご自分では交換をなさらないで販売店もしくは、電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。
- 長くご使用にならない時や、雷が鳴っている時などは、電源プラグをコンセントからはずしてください。
- 付属端子の横にあるACコンセントでは、電気掃除機、アイロン、電気コタツなど、消費電力の大きな器具を絶対に使用しないでください。



このような現象は故障ではありません

下記のような、故障でない現象でサービスを依頼された場合には、保証期間中であっても実費料金をいただきます。

現象	原因	解決法
スイッチを入れても、すぐに音がでない。	エレクトーンが正しく作動するためには、数秒の時間があるため。	エレクトーンが正確に作動する証拠です。ご心配ありません。
時々雑音が入る。(ガリッとかポツンという雑音)	①家庭の電気冷蔵庫、洗濯機など電気器具の電源ON、OFFのとき。 ②市街地のネオンサインの故障、電気ドリルなど。	①原因と思われる機器からなるべく離れたコンセントを使う。 ②ネオンなどの故障を修理する。 ③原因不明の場合は電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ラジオやテレビ等に雑音が入るときがある。	エレクトーンのすぐ近くにラジオやテレビを置いてあるとき。	ラジオやテレビはなるべくエレクトーンから離してご使用ください。
ラジオやテレビ等の電波が入るときがある。	近くに大電力の放送局やアマチュアの無線局があるとき。	どうしても気になる場合は、お求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
音が割れる。(共鳴する、あるいはビビる)	エレクトーンの音は持続音ですから、周囲の戸棚、窓ガラスその他の器物に共鳴することが多くあります。	①音量を小さくする。 ②共鳴物を取り除く。
電源を入れたまま振動やショックを与えると雑音ができる。	内蔵のリバブレーション装置に柔らかいスプリングを使用しているため、振動が伝わるため。	①使用中は、大きな振動やショックを与えないようにしてください。 ②エレクトーンはぐらつかないように設置してください。 ③移動する時は、電源スイッチを切るか、リバブレーターを上へあげてリバブがつかからないようにしてから移動してください。
ヘッドホンで練習のとき、ブーンという電気の雑音(ハム)が気になる。	本体のスピーカーで音をだしている時はあまり気にならないのに、ヘッドホンを使って練習する際ブーンという電気のうなり雑音(ハム)が気になることがある。	エレクトーン本体の電源プラグをコンセントへ逆にさしこんでみてください。
トーンレバーによって、鍵盤位置による音量のバラツキがある。	一般に電子楽器では音色を変えるという本質的な要素を持つため、音色による各鍵盤の音量バラツキをなくすことは非常に困難です。エレクトーンではどの音色でも演奏上問題のないように設計、調整されています。	音の強さや音色はエレクトーンの設定場所の状態や聞く位置などによって大きく異なることがあります。どうしても気になる時はお求めの楽器店あるいは電音サービスセンター、サービスステーションまでご相談ください。
ペダル鍵盤ではピッチが高く、上鍵盤高音部では低く感じる。	特にピアノと比較した場合に感じますが、ピアノでは倍音構成が複雑で(特に高音、低音では)実音での調律ができず、倍音を聞いて調律しています。エレクトーンの場合は逆に実音で調律するので、ピアノとエレクトーンでは本質的に違うわけです。	

現象	原因	解決法
ペダル鍵盤は同時に2音をおさえても1音しかでない。 また、上・下鍵盤は同時に8音おさえても、それぞれ7音しかでない。	ペダル鍵盤は1音、上・下鍵盤はそれぞれ7音ずつの音しかでないようになっています。これは、演奏上、設計上の理由からです。	ペダル鍵盤は高音優先、上・下鍵盤は先におさえた鍵盤の音を優先します。
アタック音がでない。	アッパーサステインを使っているときはアタック4'の音がでなくなります。	アタック4'の音が必要なときは、アッパーサステインのタブレットをOFFにしてください。
セットしたトーンレバーの音がでてこない。	スペシャルプリセットやカスタムボイス、またはアンサンブルボイスが優先されているためです。	プリセットアンサンブルのアップパーアンサンブルタブレット、またはアンサンブルボイスのアンサンブルボタンを入れてください。
上・下鍵盤をおさえてもメロディーオンコードの音がでてこない。	①上鍵盤トーンレバーまたはアンサンブルボイスをセットしていないため。 ②上鍵盤の低音域でメロディーを弾いているため。	①上鍵盤トーンレバーまたはアンサンブルボイスをセットしてください。 ②上鍵盤の低音部(f-a#)では、下鍵盤でおさえるコードやモードのちがいで、メロディーオンコードの音がでないことがあります。
オートリズムのボタンを一緒に2つセットしても、1つのリズムしかでてこない。	上下のリズムは、組み合わせてもきれいにならないので、組み合わせられないようになっています。下側のリズムが優先されます。	上下のリズムは、組み合わせないようにしてください。
ワウギターの音色がリズムにのらない。	ワルツ1、ボサノバ2、バラードとは連動しません。	左記以外のリズムと組み合わせてください。
オートベース/コードの音がでてこない。	オートベース/コードは下鍵盤およびペダル鍵盤のトーンレバーがセットされていなければ音はでません。また、オートリズムが作動していないときはリズムをきざまず持続音となります。	必ず下鍵盤、ペダル鍵盤のトーンレバーをセットしてください。また、リズム伴奏がしたいときは必ずオートリズムをONにしてください。
シングルフィンガーコードで下鍵盤の高い方をおさえても低い方をおさえても、音程が変わらない。	シングルフィンガーコードでは定められた1オクターブの中の音がでるようになっています。同じ音名であれば、下鍵盤のどの位置をおさえても同じ音程で和音ができます。	
オートベース/コードでフィンガードコードとメモリーのボタンを押すと、おさえたはずの和音とは違った和音がきざまれる。	コードをチェンジするとき、瞬間的に関係のない鍵盤に触れて、それを機械がすばやくキャッチするためです。	①正確にコードチェンジを行ってください。 ②メモリーボタンをOFFにしてください。
下鍵盤が鳴りっぱなしになってしまう。	①オートベース/コードのコンスタントがONで、さらにメモリーもONになっているためです。 ②オートリズムがきざまれていて、メモリーがONになっているためです。	オートベース/コードのメモリーボタンをOFFにしてください。
オートベース/コードを使っているとき、スペシャルプリセットが下鍵盤に移せない。	オートベース/コードを使っているときは、スペシャルプリセットを下鍵盤には移せないようになっています。また、シングルフィンガーコードを使っているときは、カスタムボイスも下鍵盤には移せません。	
オートアルペジオのボイスのボタンを押しただけでアルペジオされる。	ボイス1、ボイス2のボタンを押すと、パターンうちの左から4番目(右から3番目)のパターンでアルペジオされます。	アルペジオが必要でないときは、アルペジオボイスのボタンを押さないでください。

サービスと保証について

保証

エレクトーンのご保証は、保証書の裏面に記載の規定によりご購入から満1ヵ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。また保証は日本国内のみ有効といたします。

保証書

エレクトーン納入の際、保証書もお渡しいたしますので大切に保管くださるようお願いいたします。

また、納入調整サービスの際には納入調整者が保証書内に必要事項記入の上発行いたしますので記載事項をご確認ください。



保証書はよくお読みください。

保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社がエレクトーンをご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う1ヵ年間の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただきますこととなります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮の上で保管してください。(エレクトーンのイスの裏にあります保証書ホルダーをご利用ください)また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別やサービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

納入調整サービス

エレクトーンをお納めさせていただきますと、販売店からエレクトーンのご説明かたがたお納めしたエレクトーンの調子を最良状態にするよう点検調整にお伺いいたします。その際、納入調整サービスカードを提示いたしますので、カード裏面の点検調整事項について、ご確認・ご捺印のうえ、カードを納入調整者にお渡しください。

お求めのエレクトーンについてご不明の点およびお聞きになりたい点がございましたらその節にお申しつけくださるようお願い申し上げます。

保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合にはヤマハ特約楽器店、小売楽器店にご連絡いただきますと販売店またはヤマハのエレクトーン技術者が直ちに調整修理にお伺いします。
2. 保証書は、サービスにお伺いしたときに今後の製品改良の貴重な資料とするため技術者がお預りさせていただきます。お預りした保証書は、弊社支店に送られ、記録した後に各支店から直接お客さまにご返送申し上げます。この間、約1週間～10日間程度を要しますがご心配なくお待ちくださるようお願い申し上げます。

3. 遠方に移転される場合は、事前にお買上げ楽器店あるいは弊社支店にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続きいたします。

保証期間後のサービス

満1ヵ年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引続き責任をもってサービスをさせていただきます。また、修理可能期間は10年となっております。なお、補修用性能部品(製品本来の機を維持する為に必要な部品)の最低保有期間は8年となっております。保証期間以後の移転の場合も保証期間中と同様にご連絡いただきましたら、移転先の楽器店をご紹介いたします。

サービスのご依頼

●ご依頼の前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、電気製品を接続してお確かめください。

2. 電話でのご依頼の際、再度、故障かどうかの確認をさせていただきます場合がありますので、ぜひご協力をお願いします。
(28～29ページの「このような現象は故障ではありません」を参照)

●エレクトーンの様子は詳しくお知らせください。

1. できれば実際にエレクトーンをお弾きになっていらっしゃる方に様子をお聞かせ願えれば、あらかじめ用意する部品などの見当がつき、スムーズにいきます。

2. 時々調子のおかしくなるような場合には、お手数でもその状態をできるだけ詳しくお知らせください。たとえば、●夜だけ音が小さい ●ある時間だけ雑音がでる ●エレクトーンの音をださなくても、スイッチを入れるだけで雑音が出るなどの場合です。

3. エレクトーンの種類など、サービスご依頼のエレクトーンに関する詳細は、保証書をご覧ください。使用部品が製造時期やモデルによって異なる事もありますので、早く確実にサービスさせていただくためにぜひお願いいたします。

●これだけはお知らせください。

ご住所、お名前、ご連絡先、ご購入店、お買上げ年月日、機種名(モデル名)……保証書に記載されております。

症状……なるべく具体的に。

サービスのお約束について

1. お仕事の関係で、昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。

2. 万一お約束した日時がご都合の悪い時には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡ください。

3. お店にサービス依頼されたにもかかわらず、日時が経過してもなおおサービス員がお伺いしない場合は、お手数でも右記の電音サービスセンター、サービスステーションまでご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

ヤマハ電気音響製品サービス網

全国のヤマハ特約楽器店と下記電音サービスセンター、サービスステーションが責任をもってアフターサービスを行っております。

〔お客様相談窓口〕

東京電音サービスセンター	☎03(572)3341 〒104 東京都中央区銀座7-11-3 矢島ビル4F
東京ステレオサービスステーション	☎03(255)2241 〒101 東京都千代田区神田駿河台3 4龍名館ビル4F
東京電音サービスステーション	☎03(572)3341 〒104 東京都中央区銀座7-11-3 矢島ビル4F
横浜電音サービスステーション	☎045(212)4852 〒231 横浜市中区本町6-61-1
新潟電音サービスステーション	☎0252(43)4321 〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F
大阪電音サービスセンター	☎06(877)5262 〒564 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター
大阪ステレオサービスステーション	☎06(445)6421 〒550 大阪市西区江戸堀1 9 1肥後橋センタービル6F
大阪電音サービスステーション	☎06(877)5262 〒564 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター
四国電音サービスステーション	☎0878(33)2233 〒760 高松市南新町6-1 岡田ビル2F
名古屋電音サービスセンター	☎052(231)2432 〒460 名古屋市中区栄1-8-7
名古屋電音サービスステーション	☎052(231)2432 〒460 名古屋市中区栄1-8-7
北陸電音サービスステーション	☎0762(43)5431 〒921 金沢市泉本町7-7
浜松電音サービスステーション	☎0534(56)9211 〒430 浜松市東伊場2-14-1
九州電音サービスセンター	☎092(472)2137 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
九州電音サービスステーション	☎092(472)2137 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
広島電音サービスステーション	☎08287(4)3787 〒731-01 広島市安佐南区祇園町西原2205-3
北海道電音サービスセンター	☎011(781)3621 〒065 札幌市東区本町1条9-3
北海道電音サービスステーション	☎011(781)3621 〒065 札幌市東区本町1条9-3
仙台電音サービスセンター	☎0222(95)6111 〒983 仙台市原町南目字薬師堂北2-1
仙台電音サービスステーション	☎0222(95)6111 〒983 仙台市原町南目字薬師堂北2-1

〔お預り修理窓口〕

東京電音サービスデポ	☎03(904)4986・4901 〒171 東京都練馬区高野台2-3-10
大阪電音サービスデポ	☎06(877)5262 〒564 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター
名古屋電音サービスデポ	☎052(231)2432 〒460 名古屋市中区栄1-8-7
九州電音サービスデポ	☎092(472)2137 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
北海道電音サービスデポ	☎011(781)3621 〒065 札幌市東区本町1条9-3
仙台電音サービスデポ	☎0222(96)0249 〒983 仙台市卸町5-7 卸商共同配送センター3F

〔本社〕

営業技術部 電音サービス課 ☎0534(65)1111
〒430 浜松市中区中沢町10-1

●アタック音 (P.6)

上鍵盤トーンレバー音色のひとつで、音の立ちあがり鋭い減衰音です。

●アタックレングス (P.6)

アタック音が消えるまでの時間をコントロールするレバーです。

●アッパー

アッパーとは「上」という意味。エレクトーンでは上鍵盤関係のことをさします。

●アンサンブルボイス (P.8)

バイオリンアンサンブルやトランペットアンサンブルの響きなどが、あらかじめセットされている音色です。

●EXP-IN (P.24)

シンセサイザーなどと接続する端子です。

●エクスプレッションペダル (P.4)

演奏しながら音量をコントロールし、音に表情をつけるペダルです。

●ABC (P.20)

エレクトーンでは、オートベース/コード (Auto Bass Chord) のことを、頭文字をとってこう呼ぶことがあります。

●エフェクト

サステインやビブラートのような「効果」のことです。

●AUX-IN (P.24)

レコードやテープの音をエレクトーンから再生したい時、ステレオなどと接続する端子です。

●AUX-OUT (P.24)

テープに録音したり、他のアンプから音をだしたい時に接続する端子です。

●オクターブ

ある音に対して、8度の音程をもつ音をさします。したがって音名は同じです。

●オーケストラ音色 (P.6、13)

トーンレバーのうち、フルート以外の、ストリング、クラリネット、チェロなど、オーケストラで使われる楽器の音色をさします。

●オートアルペジオ (P.23)

アルペジオとは和音を分散して連続的に奏でる奏法のこと。エレクトーンでは、この複雑な奏法が自動的に得られます。(オートリズムに連動します)

●オートベース/コード (P.20)

下鍵盤のコード伴奏とペダル鍵盤のベース伴奏がリズムに合わせて自動的に演奏される機能です。(オートリズムに連動します)

●オートリズム (P.17)

エレクトーン演奏のバックに、ワルツやロックなどのリズムを自動的に流す機能です。

●オルタネイティングベース

音階の1度と5度の音を交互にだす、基本的なベース奏法のこと。オートベース/コードを使えば自動的に得られます。

●音色

「ねいろ」のことです。エレクトーンのリバ

ーやボタンには、フルートやストリングなどの音色名がついています。これは表示されている楽器の音をイメージしてつくられた「音色」です。

●音程

音と音との間隔のことで、同じ高さの音を1度音程、隣の音を2度音程、オクターブ上の音は8度音程です。

●音名

音の高さを呼びあわす名前のことです。日本語ではハニホヘトイロ、イタリア語ではドレミファソラシ。エレクトーンでは、特に伴奏をつける場合、アメリカやイギリスで使っているCDEFGABをよく使います。

●カスタムボイス (P.10)

カスタムというのは「注文してつくった」というような意味です。スペシャルプリセットと同じように自然楽器に近い音がセットされている音色で、音質レベルが高く、音色、音量も微妙に変化します。

●カスタムA-B-C (P.22)

A B Cのボタンのひとつで、このボタンを選ぶと、下鍵盤とペダル鍵盤の自動伴奏が切りはなされます。

●カブラー効果 (P.6)

ひとつの鍵盤をおさえることによって、いくつもの鍵盤を同時におさえたのと同じような厚みのある音が得られる効果です。

●クリックストップ (P.6)

トーンレバーやビブラートのレバーなどを上下にゆっくり動かしてみると、途中2カ所に軽い手ごたえがあって、レバーをセットできるようになっています。これをクリックストップ式といいます。

●減衰音

鍵盤をおさえ続けても、途中で自然に消えていく音です。アタック音やスペシャルプリセットのピアノなどは減衰音です。

●コード

和音のことです。エレクトーンでは、主にコードによって伴奏をつけます。

●コードネーム (P.21)

和音の略記法のひとつで、和音の根音をアルファベットで表わします。Cはシーメジャー、Amはエーマイナー、G7はジーセブンスという和音のことです。

●根音 (P.21)

和音のもとになる音で、ドミソの和音ならドが根音です。コードネームは根音をアルファベットで表わします。A B Cのシングルフィンガーコードで伴奏をつける時は、この根音をおさえるだけで自動的に和音が得られます。

●コンスタント (P.22)

A B Cとオートリズムの連動をキャンセルするボタンです。

●コンビネーション (P.7)

「組み合わせ」という意味で、あらかじめト

ーンレバーを組み合わせた音色がセットされているレバーです。

●サステイン (P.14)

鍵盤から指を離してもしばらく音が残る「余韻」をつける効果です。上鍵盤とペダル鍵盤の音、およびオートアルペジオの音にそれぞれかけることができます。

●持続音

鍵盤をおさえ続けている間、ずっと持続してでてくる音です。エレクトーンの音色のほとんどはこの持続音です。

●シングルフィンガーコード (P.20)

A B Cのボタンのひとつです。このボタンを選ぶと、下鍵盤でコードの根音 (例えばドミソならド) をひとつおさえるだけで、コードとベース音が自動伴奏されます。

●シンクロスタート (P.17)

シンクロとは「時を同じくする」という意味です。エレクトーンでは、下鍵盤またはペダル鍵盤をおさえると同時に、オートリズムやA B Cなどをスタートさせるスイッチのことをいいます。

●シンフォニックコーラス (P.13)

複数の楽器で合奏しているときのような、広がりのある響きにする効果です。

●スタッカート (・)

音を短く切って軽快に演奏するように指示する記号です。サステインを使って演奏する時はスタッカートで弾いた方が、音がにごりません。

●ストリング (P.6、8)

「弦」のことです。エレクトーンには、弦楽器の音をイメージしてつくったストリング音色があります。

●スペシャルプリセット (P.9)

プリとは「あらかじめ」という意味。つまりあらかじめセットされた音色のこと。上鍵盤または下鍵盤の音づくりに使います。単独でも、トーンレバー音色などとミキシングしても使えます。

●スラー (へ)

音を流れるようになめらかに、次の音に移行させる弾きかたを指示する記号です。

●セブンスコード (P.21)

三和音に7度の音を加えた和音です。A B Cのシングルフィンガーコードを使っている時は、下鍵盤と同時にペダル鍵盤の白鍵を踏むことで得られます。

●タイ (ー)

同じ音程の音符が続いて並んでいる時、指を離さないで続けて弾くことを指示する記号です。

●タブレット

エレクトーンのスウィッチのなかで、たて長のシーソースイッチをタブレットといいます。手前を押すとON状態になります。

●ダルセーニョ (D.S.)

曲の途中で、この記号のところまできたら、

※記号までもどります。

●中央C

鍵盤のほぼ中央にある音で、高音部譜表の下1線上に記されます。

●ディアパソン (P.7)

パイプオルガンの基本的な音をイメージしてつくった重厚な音色で、下鍵盤トーンレバーのひとつです。

●ディレイビブラート (P.12)

鍵盤をおさえてから、しばらくしてビブラートがかかる効果です。

●テンポランプ (P.18)

オートリズムをスタートさせている時、第1拍目に赤く点灯するランプです。

●テンポコントロール (P.18)

オートリズムのリズムがきざまれる速さ(テンポ)を調節するつまみです。

●トレモロ (P.13)

音をうねらせ、豊かな広がりをもたせる効果です。

●ニーレバー (P.14,16)

エレクトーンのパネル下にあるレバーで、ひざを右に動かして操作します。これを使うと、演奏中、任意にサステインやメロディーオンコードが得られます。

●ノーマル (P.22)

「普通の」という意味で、ABCのノーマルボタンは、ABCをキャンセルして普通の演奏をする時に使います。

●ハーブシコード (P.9)

チェンバロともいわれ、16~18世紀頃によく使われた鍵盤楽器です。スペシャルプリセットにこの楽器の音をイメージしてつくった音色があります。

●ビブラート (P.12)

音をこきざみにふるわせ、うるおいをつける効果です。

●ファンブロック (P.20)

ファンとは「楽しみ」のこと。エレクトーンでは、自動的に伴奏が楽しめるオートベース/コードなどの機能をいいます。

●フィート (P.6)

音の高さを表わすもので、 \cdot と書きます。もともとパイプオルガンのパイプの長さによって由来しています。

●フィンガードコード (P.22)

ABCボタンのひとつで、この赤いボタンを押し、下鍵盤で和音をおさえると、コードとベース音で自動伴奏されます。

●フットスイッチ (P.19)

エクспRESSIONペダルの左奥にあるゴムのスイッチで、右足の先で左に押して操作します。これを使うと、演奏中にリズムをストップさせたり、ブレイクバリエーションに切りかえたりできます。

●プリセットアンサンブル (P.11)

スペシャルプリセットとカスタムボイス音色の使い方を決めるタブレットです。それ

ぞれのスイッチの役割をするタブレットと、上鍵盤でミキシングさせたり、下鍵盤に移したりするタブレットがあります。

●フルート音色 (P.6,13)

エレクトーンのもっとも基本的な音色で、いろいろなレジストレーション(音づくり)のもとになります。音程も一番多く用意されています。

●ブレイクバリエーション (P.19)

リズムにアクセントをつける変則リズムです。オートリズムを鳴らしている時、ONスイッチを押せば、それまで鳴っていたリズムが変則リズムに切りかわります。

●ペダル (P.7)

エレクトーンでは主にペダル(足)鍵盤関係のことをさします。

●ペダルピッチ (P.15)

ペダル鍵盤の音程を微妙に調節するつまみです。

●ヘッドホンジャック (P.24)

ヘッドホンを接続する端子です。夜間の練習などにご利用ください。

●マイナーコード (P.21)

短調の和音です。Am、Emのように表わします。ABCのシングルフィンガーコードを使っている時は、下鍵盤と同時にペダル鍵盤の黒鍵を踏むことで得られます。

●マスターボリューム (P.5)

エレクトーン全体の音量をコントロールするつまみです。

●マニュアル

手鍵盤のことです。

●マニュアルバランス (P.15)

上鍵盤と下鍵盤の音量のバランスを調節するレバーです。

●マルチベース (P.21)

ABCを使って自動伴奏をしている時、このボタンを押すと、ベース進行のパターンが変化します。

●メジャーコード (P.21)

長調の和音のことで、C、Fというように表わします。ABCのシングルフィンガーコードを使っている時、下鍵盤をひとつおさえると、その音を根音にしたメジャーコードが得られます。

●メモリー (P.21)

ABCやオートアルペジオを使って自動伴奏している時、このボタンを押すと、下鍵盤から指を離しても、同じ伴奏が自動的にくり返されます。

●メロディーオンコード (P.16)

上鍵盤で弾くメロディーにハーモニーを自動的に重ねる機能です。ハーモニーの音は、下鍵盤でおさえたコードの音から自動的に選ばれます。

●リズムバランス (P.18)

オートリズムをきざむ高音のシンバル系と低音のバスドラムなどの音量のバランスを

調節するつまみです。

●リズムバリエーション (P.18)

4小節目、または8小節目ごとにリズムのパターンを変化させる機能です。

●リバーブ (P.15)

大きなホールで演奏しているように音がひろがる一種の残響効果です。

●臨時記号 (#、b、r)

曲の途中で、音の高さを一時的に変える記号です。半音上げる#(シャープ)、半音下げるb(フラット)、もとの音にもどすr(ナチュラル)などがあります。

●レガート

「なめらか」に演奏するように指示する記号です。スラーよりもっと広範囲な表現で、全体に音を切らずに演奏します。

●レジストレーション

演奏にあたって、その曲想に合った音づくりをするためにエレクトーンのリバーやボタンなどの組み合わせを決めることです。

●ロー

ローとは「下」のこと。エレクトーンでは主に下鍵盤関係のことをさします。

●ローカブラー (P.15)

下鍵盤トーンレバーの音に、1オクターブ音程の高い音を重ねて、厚みのあるサウンドにする効果です。

●ワウギター (P.7)

ワウワウ効果のかかった音色で、オートリズムを使っている時は、リズムに合わせてきざまれます。

●ワウプラス (P.8)

プラスとは金管楽器のことで、これにワウワウ効果がかかっており、鍵盤をおさえた時に微妙に変化します。

本 社 / 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL. 0534(65)1111

東京支店 / 〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル
TEL. 03(572)3111

大阪支店 / 〒542 大阪市南区末吉橋4-8/心齋橋プラザビル東館
TEL. 06(251)1111

名古屋支店 / 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL. 052(201)5141

九州支店 / 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL. 092(472)2151

北海道支店 / 〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター
TEL. 011(512)6114

仙台支店 / 〒983 仙台市原町南目薬師堂北2-1
TEL. 0222(95)6111

広島支店 / 〒730 広島市中区基町13-13/平和生命ビル
TEL. 0822(21)4122

浜松支店 / 〒430 浜松市田町32/東京海上ビル
TEL. 0534(54)4116

エレクトーン®は当社の登録商標です。

